

授業名	健康スポーツ科学 a・b・e			開講学年	1回生	単位数	1単位	
英文名	Health and Sports Science			開講時期	春学期	必修・選択	必修	
担当者	吉永 有佳			対象学生	歴史1回生、幼児教育1ya~yc・yi~yj			
授業の概要	受講者全員に体力測定を実施する。講義では健康、体力、トレーニングについて理解を深める。実技では各種スポーツのルールを理解し、基本的な技術の習得により、生涯にわたり日常的にスポーツを行う態度と能力を養う。							
学習成果到達目標	1) 運動の実践により生涯スポーツの基礎となる知識・技能を習得する 2) 健康の維持・増進を目的とした運動・栄養・休養の見識を高め自己管理能力を習得する 3) スポーツを通してコミュニケーション能力、協調性、リーダーシップなどを育む							
評価方法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (健康への理解	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力) (
テキスト	使用しない							
参考書	『健康・スポーツ科学講義』出村慎一監修 (杏林書院)							
留意事項	必要に応じてプリントを配布する。体操服と体育館シューズを必ず持参すること。							
オフィス アワー	授業終了後体育準備室で実施する。							

授 業 名		健康スポーツ科学 a・b・e
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	はじめに	(内 容) 本講に関するオリエンテーション (必要な準備)
第2回	アイスブレイキング	(内 容) コミュニケーションを目的としたレクリエーション (必要な準備)
第3回	ソフトバレーボール1	(内 容) 基本技術の習得・ルールの理解・ソフトバレーボールの試合 (必要な準備) ソフトバレーボールの特徴を調べておく
第4回	ソフトバレーボール2	(内 容) 基本技術の習得・ソフトバレーボールの試合 (必要な準備) ソフトバレーボールのルールの復習
第5回	ソフトバレーボール3	(内 容) ソフトバレーボールの試合 (必要な準備) ソフトバレーボールの戦術について調べる
第6回	ソフトバレーボール4	(内 容) ソフトバレーボールの試合 (必要な準備) ソフトバレーボールの戦術について調べる
第7回	講義1	(内 容) 健康と体力について (必要な準備) 健康について自分の考えをまとめておく
第8回	体力測定1	(内 容) 文部科学省新体力テスト (必要な準備)
第9回	体力測定2	(内 容) 文部科学省新体力テスト (必要な準備)
第10回	講義2	(内 容) 体力評価 (必要な準備) 体力測定について振り返りをしておく
第11回	バドミントン1	(内 容) 基本技術の習得・バドミンントンの試合 (必要な準備) バドミンントンのルールを調べておく
第12回	バドミントン2	(内 容) バドミンントンの試合 (必要な準備) バドミンントンの戦術について調べる
第13回	卓球1	(内 容) 基本技術の習得・卓球の試合 (必要な準備) 卓球のルールを調べておく
第14回	卓球2	(内 容) 卓球の試合 (必要な準備) 卓球の戦術について調べる
第15回	まとめ	(内 容) レポート作成、提出 (必要な準備)

授業名	健康スポーツ科学 c・d			開講学年	1回生	単位数	1単位	
英文名	Health and Sports Science			開講時期	春学期	必修・選択	必修	
担当者	山岡 憲二			対象学生	幼児教育1yd～ye、yf～yh			
授業の概要	受講者全員に体力測定を実施する。講義では健康、体力、トレーニングについて理解を深める。実技では各種スポーツのルールを理解し、基本的な技術の習得により、生涯に亘り日常的にスポーツを行う態度と能力を養う。							
学習成果到達目標	1) 運動の実践により生涯スポーツの基礎となる知識と技能を習得する 2) 健康の維持・増進を目的とした運動・栄養・休養の見識を高め自己管理能力を習得する 3) スポーツを通してコミュニケーション能力、協調性、リーダーシップなどを育む							
評価方法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (授業態度・協調性	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力 (健康への理解	課題発見・解決能力			
テキスト	使用しない。							
参考書	「健康・スポーツ科学講義」 出村 慎一 監修 (杏林書院)							
留意事項	必要に応じてプリントを配付する。実技を行う際は、運動に相応しい服装と上履きを必ず用意すること。							
オフィス アワー	授業終了後体育準備室で実施する。							

授 業 名		健康スポーツ科学 c・d	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	はじめに	(内 容) 本講に関するオリエンテーション (必要な準備)	
第2回	アイスブレイキング	(内 容) コミュニケーションワーク (必要な準備)	
第3回	ソフトバレーボール1	(内 容) 基本技術の習得・ルールを理解・ソフトバレーボールの試合 (必要な準備) ソフトバレーボールの特徴を調べておく	
第4回	ソフトバレーボール2	(内 容) 基本技術の習得・ソフトバレーボールの試合 (必要な準備) ソフトバレーボールのルールの復習	
第5回	ソフトバレーボール3	(内 容) ソフトバレーボールの試合 (必要な準備) ソフトバレーボールの戦術について調べる	
第6回	ソフトバレーボール4	(内 容) ソフトバレーボールの試合 (必要な準備) ソフトバレーボールの戦術について調べる	
第7回	講義1	(内 容) 健康の意義について1 (必要な準備) 健康について自分の考えをまとめておくこと	
第8回	講義2	(内 容) 健康の意義について2 (必要な準備) 健康について自分の考えをまとめておくこと	
第9回	体力測定1	(内 容) 文部科学省新体力テスト (必要な準備) 体力測定について振り返りをしておく	
第10回	体力測定2	(内 容) 文部科学省新体力テスト (必要な準備) 体力測定について振り返りをしておく	
第11回	バドミントン1	(内 容) 基本技術の習得・バドミントンの試合 (必要な準備) バドミントンのルールを調べる	
第12回	バドミントン2	(内 容) バドミントンの試合 (必要な準備) バドミントンの戦術について調べる	
第13回	バドミントン3	(内 容) バドミントンの試合 (必要な準備) バドミントンの戦術について調べる	
第14回	バドミントン4	(内 容) バドミントンの試合 (必要な準備) バドミントンの戦術について調べる	
第15回	まとめ	(内 容) レポート作成、提出 (必要な準備)	

授業名	健康スポーツ科学 a・b・e			開講学年	1回生	単位数	1単位	
英文名	Health and Sports Science			開講時期	秋学期	必修・選択	必修	
担当者	吉永 有佳			対象学生	歴史1回生、幼児教育1ya~yc・yi~yj			
授業の概要	本講では、運動が身体にどのような影響を及ぼすかを学習し、学生個人の健康についての理解を各種スポーツの実践を通して深める。							
学習成果到達目標	1) 運動の実践により生涯スポーツの基礎となる知識・技能を習得する 2) 健康の維持・増進を目的とした運動・栄養・休養の見識を高め自己管理能力を習得する 3) スポーツを通してコミュニケーション能力、協調性、リーダーシップなどを育む							
評価方法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (健康への理解	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力)			
テキスト	使用しない							
参考書	『健康・スポーツ科学講義』出村慎一監修 (杏林書院)							
留意事項	必要に応じてプリントを配布する。体操服と体育館シューズを必ず持参すること。							
オフィス アワー	授業終了後体育準備室で実施する。							

授 業 名		健康スポーツ科学 a・b・e
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	はじめに	(内 容) 本講に関するオリエンテーション (必要な準備)
第2回	講義 1	(内 容) 健康づくりのための運動について (必要な準備) 健康づくりの運動にはどのようなものがあるか、考えておく
第3回	講義 2	(内 容) 体力づくりのための運動について (必要な準備) 体力づくりの運動にはどのようなものがあるか、考えておく
第4回	バレーボール 1	(内 容) 基本技術の習得・ルールの理解・バレーボールの試合 (必要な準備) バレーボールのルールを調べておく
第5回	バレーボール 2	(内 容) 基本技術の習得・バレーボールの試合 (必要な準備) バレーボールのルールの復習
第6回	バレーボール 4	(内 容) バレーボールの試合 (必要な準備) バレーボールの戦術について調べる
第7回	バレーボール 3	(内 容) バレーボールの試合 (必要な準備) バレーボールの戦術について調べる
第8回	バドミントン 1	(内 容) 基本技術の習得・バドミントンの試合 (必要な準備) バドミントンのルールを調べる
第9回	バドミントン 2	(内 容) バドミントンの試合 (必要な準備) バドミントンの戦術について調べる
第10回	バドミントン 3	(内 容) バドミントンの試合 (必要な準備) バドミントンの戦術について調べる
第11回	バスケットボール 1	(内 容) 基本技術の習得・ルールの理解・バスケットボールの試合 (必要な準備) バスケットボールのルールを調べる
第12回	バスケットボール 2	(内 容) 基本技術の習得・バスケットボールの試合 (必要な準備) バスケットボールのルールの復習
第13回	バスケットボール 3	(内 容) バスケットボールの試合 (必要な準備) バスケットボールの戦術について調べる
第14回	バスケットボール 4	(内 容) バスケットボールの試合 (必要な準備) バスケットボールの戦術について調べる
第15回	まとめ	(内 容) レポート作成、提出 (必要な準備)

授業名	健康スポーツ科学 c・d			開講学年	1回生	単位数	1単位	
英文名	Health and Sports Science			開講時期	秋学期	必修・選択	必修	
担当者	山岡 憲二			対象学生	幼児教育1yd～ye・yf～yh			
授業の概要	本講では運動が身体にどのような影響を及ぼすかを学習し、学生個人の健康についての理解を各種スポーツの実践を通して深める。							
学習成果到達目標	1) 運動の実践により生涯スポーツの基礎となる知識と技能を習得する 2) 健康の維持・増進を目的とした運動・栄養・休養の見識を高め自己管理能力を習得する 3) スポーツを通してコミュニケーション能力、協調性、リーダーシップなどを育む							
評価方法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (授業態度・協調性	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力 (健康への理解	課題発見・解決能力			
テキスト	使用しない。							
参考書	「健康・スポーツ科学講義」 出村 慎一 監修 (杏林書院)							
留意事項	必要に応じてプリントを配付する。実技を行う際は、運動に相応しい服装と上履きを必ず用意すること。							
オフィス アワー	授業終了後体育準備室で実施する。							

授 業 名		健康スポーツ科学 c・d	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	はじめに	(内 容) 本講に関するオリエンテーション (必要な準備)	
第2回	講義 1	(内 容) 健康成立のための条件について (必要な準備)	
第3回	講義 2	(内 容) 健康とスポーツ、体育及びレクリエーション活動において (必要な準備) 健康づくりの運動にはどのようなものがあるか、考えておく	
第4回	バレーボール 1	(内 容) 基本技術の習得・ルール理解・バレーボールの試合 (必要な準備) バレーボールのルールを調べておく	
第5回	バレーボール 2	(内 容) 基本技術の習得・バレーボールの試合 (必要な準備) バレーボールのルールの復習	
第6回	バレーボール 3	(内 容) バレーボールの試合 (必要な準備) バレーボールの戦術について調べる	
第7回	バレーボール 4	(内 容) バレーボールの試合 (必要な準備) バレーボールの戦術について調べる	
第8回	バドミントン 1	(内 容) 基本技術の習得・バドミントンの試合 (必要な準備) バドミントンのルールを調べる	
第9回	バドミントン 2	(内 容) バドミントンの試合 (必要な準備) バドミントンの戦術について調べる	
第10回	バドミントン 3	(内 容) バドミントンの試合 (必要な準備) バドミントンの戦術について調べる	
第11回	バドミントン 4	(内 容) バドミントンの試合 (必要な準備) バドミントンの戦術について調べる	
第12回	バスケットボール 1	(内 容) 基本技術の習得・ルールの理解・バスケットボールの試合 (必要な準備) バスケットボールのルールの復習	
第13回	バスケットボール 2	(内 容) バスケットボールの試合 (必要な準備) バスケットボールの戦術について調べる	
第14回	バスケットボール 3	(内 容) バスケットボールの試合 (必要な準備) バスケットボールの戦術について調べる	
第15回	まとめ	(内 容) レポート作成、提出 (必要な準備)	

授業名	英語・コミュニケーション a			開講学年	1回生	単位数	1単位	
英文名	English Communication			開講時期	春学期	必修・選択	必修	
担当者	山本 典子			対象学生	歴史1回生			
授業の概要	<p>まずは、基本文法をしっかり身につけながらリーディング、ライティング、リスニングの力を少しずつのばしていきたい。小テストは毎回行いますので予習、復習はしておくこと。歴史専攻であるので、日本史や日本文化について英語で読みだり話したりすることも取り入れたい。</p>							
学習成果到達目標	<p>1) 多読、英会話のために必要な文法の基礎を身につける。 2) 文法は特に現在形、過去形、未来形を使えるようにする。 3) 歴史専攻であるので、自分の興味ある歴史上の人物や事柄について簡単に英語で説明できるようにする。</p>							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テキスト	『Focus on Basic English for Communication』樋口千春・福富かおる・Richard Carpenter 松柏社							
参考書	特になし							
留意事項	<p>テキストは毎回使用するので、必ず購入し持参してください。このテキストは秋学期も使用します。宿題は期日に提出すること。予習・復習はしっかりと行うこと。評価方法は上記にあります。テキストを持ってきていない、寝ている、スマホを見ているなど、授業態度によってはそのとおりではありません。</p>							
オフィスアワー	担当授業終了後に実施する。							

授 業 名		英語・コミュニケーション a	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	オリエンテーション Unit 1 英語と日本語の大きな違い	(内 容)	アルファベットの歌を歌う。 主語・述語の語順確認 (必要な準備) 特になし
第2回	Unit 2 名詞・代名詞?	(内 容)	名詞・代名詞とその単数・複数 (必要な準備) テキスト pp. 10-13の予習
第3回	Unit 3 形容詞・副詞?	(内 容)	形容詞・副詞の形や使い方の練習 (必要な準備) テキスト pp. 14-17の予習
第4回	Unit 4 前置詞?	(内 容)	さまざまな前置詞をフレーズで覚える。 (必要な準備) テキスト pp. 18-21の予習
第5回	Unit 5 述語動詞の働き? 時制(現在・過去)	(内 容)	be動詞と一般動詞 不規則動詞の過去形を覚える。 (必要な準備) テキスト pp. 22-25の予習
第6回	Unit 5 述語動詞の働き? 時制(現在・過去)の復習	(内 容)	Unit 5の復習として英語基本時制の演習 不規則動詞過去形の小テスト (必要な準備) テキスト pp. 22-25の復習
第7回	Unit 6 語順の違いは意味の違い? 5文型	(内 容)	比較的短い分で5文型をしっかりと理解する。 (必要な準備) テキスト pp. 26-29の予習
第8回	Unit 6 語順の違いは意味の違い? 5文型の復習	(内 容)	長い文で5文型の演習 文型の小テスト (必要な準備) テキスト pp. 26-29の復習
第9回	Unit 7 特別な 'it' と 'there'?	(内 容)	~があります・いますの文を作ってみる。 文型の確認 (必要な準備) テキスト pp. 30-33の予習
第10回	Unit 8 意外と役立つ基本動詞?	(内 容)	基本動詞 get, have, make, takeの例文を覚える。 それぞれの過去形の確認 (必要な準備) テキスト pp. 34-37の予習
第11回	Unit 9 単語よりフレーズが大事?	(内 容)	単語ひとつひとつでなく、フレーズを意識して音読してみる。 (必要な準備) テキスト pp. 38-41の復習
第12回	Unit 10 それって正しいの?	(内 容)	さまざまな和製英語を正しい英語にして覚える。 (必要な準備) テキスト pp. 42-45の予習
第13回	Unit 11 働きが異なる動詞ing形?	(内 容)	現在分詞の使い方、役割を確認 (必要な準備) テキスト pp. 46-49の予習
第14回	Unit 12 形容詞の働きをする動詞?	(内 容)	過去分詞の使い方、役割を確認 (必要な準備) テキスト pp. 50-53の予習
第15回	春学期の復習	(内 容)	特に基本時制と現在分詞・過去分詞の復習 (必要な準備) 不規則動詞の過去形・過去分詞形をよく覚えてくること。

授業名	英語・コミュニケーション b			開講学年	1回生	単位数	1単位	
英文名	English Communication			開講時期	春学期	必修・選択	必修	
担当者	松尾 章子			対象学生	幼児教育1ya~yc			
授業の概要	英語4領域（リーディング、リスニング、スピーキング、ライティング）の基礎英語コミュニケーション力を養成する。インプット（リーディングとリスニング）には、異文化理解にもつながる多読・多聴を取り入れ、英語を英語のまま理解する練習を行う。また、アウトプット（スピーキング、ライティング）には、将来を見据えたスピーキング練習とライティング練習を行う。							
学習成果到達目標	1) 短文の英語表現を使用して、身近な内容について少しやりとりすることができる。 2) 平易な英語絵本・英語本の内容を英語のまま理解することができる。 3) 保育現場で使用する文書の一つ英語で作成することができる。							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力)			
テキスト	プリント配布							
参考書	保育英語検定受験予定者は各自の英語力に応じたテキスト・問題集を使用して、学習に取り組むことを強く望みます。 社団法人保育英語検定協会著 『保育英語検定3級テキスト（改訂版）』 本の泉社 1,900円＋税 社団法人保育英語検定協会著 『保育英語検定4級テキスト（改訂版）』 本の泉社 1,524円＋税 社団法人国際子育て支援機構著 『保育英語ワークブック（保育英語検定3級問題集）』 本の泉社 1,363円＋税 社団法人国際子育て支援機構著 『保育英語ワークブック（保育英語検定4級問題集）』 本の泉社 850円＋税							
留意事項	授業には必ず辞書を持って来てください。 提出物は期日に間に合うように提出してください。 遅刻・欠席等により小テストを受けられなかった場合、次回授業時間前までに限り追試験を受けることができます。ただし、点数の上限は8割とします。提出物についても、同じく次回授業時間前まで受け付けます。 演習授業なので、積極的な授業参加を期待します。							
オフィス アワー	研究室前に日時を掲示しますので、確認してください。							

授 業 名		英語・コミュニケーション b
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	オリエンテーション	(内 容) 到達目標の確認、進め方の説明、自己紹介 (必要な準備) 本授業のシラバスを読む
第2回	家庭調査票	(内 容) 多読紹介、家庭調査票に関する英単語・作成方法を学ぶ (必要な準備) 図書館にある英語本を5冊読み記録する、練習プリント1
第3回	私の周りの人々	(内 容) 単語テスト1、多読、ファミリーツリー作成、周囲の人々の呼び方を知る (必要な準備) 本読み300単語以上、練習プリント2
第4回	保育英語を使ったワークショップ (時間割等の都合により実施回が前後することがある)	(内 容) 保育英語を使用し、幼児や児童を対象とした理科×アートのワークショップを体験する (必要な準備) 本読み500単語以上、ワークショップで使用する物の準備
第5回	園に必要な物	(内 容) 単語テスト2、家庭調査票提出、多読、園に必要な物の名前を知る (必要な準備) 本読み500単語以上、家庭調査票作成、練習プリント3
第6回	学校周辺案内	(内 容) 単語テスト3、多読、学校周辺案内の仕方を学ぶ (必要な準備) 本読み500単語以上、練習プリント4
第7回	道案内1：表現方法	(内 容) 単語テスト4、園に必要な物のリスト提出、多読、道案内の仕方を学ぶ (必要な準備) 本読み500単語以上、園に必要な物のリスト作成、練習プリント5
第8回	運動会への案内状	(内 容) 単語テスト5、多読、運動会への案内状を読む (必要な準備) 本読み1,000単語以上、練習プリント6
第9回	道案内2：練習	(内 容) 単語テスト6、多読、道案内の練習を行う (必要な準備) 本読み1,000単語以上、練習プリント7
第10回	英語の歌	(内 容) 単語テスト7、運動会への案内状提出、多読、英語の歌を練習する (必要な準備) 本読み1,000単語以上、運動会への案内状作成、練習プリント8
第11回	チャンツ	(内 容) 単語テスト8、多読、チャンツを知る (必要な準備) 本読み1,000単語以上、練習プリント9
第12回	絵本読み	(内 容) 単語テスト9、多読、絵本読みの練習を行う (必要な準備) 本読み1,000単語以上、練習プリント10
第13回	街角英会話	(内 容) 街に出て英語で会話にチャレンジする。 (必要な準備) 本読み1,500単語以上、既習事項の復習と英会話の練習
第14回	遊び	(内 容) 単語テスト10、多読、英語の遊びを知る (必要な準備) 本読み1,500単語以上
第15回	復習	(内 容) 多読、復習 (必要な準備) 本読み1,500単語以上、既習事項で復習が必要な箇所の確認

授業名	英語・コミュニケーション c・e			開講学年	1回生	単位数	1単位	
英文名	English Communication c・e			開講時期	春学期	必修・選択	必修	
担当者	早瀬 和栄			対象学生	幼児教育1yd～ye・yi～yj			
授業の概要	保育現場における外国人の子供や保護者とのコミュニケーションの基礎習得を目標とする。基本語彙、文法、会話表現を学習し、また英語のアクセント・ストレスを練習することができる子供向けのチャンツや歌、異文化理解にもつながる多読も授業に取り入れる。							
学習成果到達目標	1) 保育園や幼稚園での登園、室内遊びに関する簡単な指示を英語で行うことができる。 2) 子ども向けの歌を英語で歌うことができる。 3) 平易な英語本を訳すことなく、英語のまま理解することができる。							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力	()
テキスト	『保育英語』 赤松直子 (成美堂)							
参考書	保育英語検定受験予定の者は各自の英語力に応じたテキスト・問題集を購入し、学習に取り組むことが望ましい。 『保育英語検定3級テキスト(改訂版)』社団法人保育英語検定協会著(本の泉社)、2057円 『保育英語検定2級テキスト(改訂版)』社団法人保育英語検定協会著(本の泉社)、2057円 『保育英語ワークブック(保育英語検定3級問題集)』社団法人 国際子育て支援機構著、1472円 『保育英語ワークブック(保育英語検定2級問題集)』社団法人 国際子育て支援機構著、1472円							
留意事項	本授業では定期試験を実施する。 5回以上の欠席は認めないが、正当な理由がある場合は考慮しますので、必ず報告すること。 授業には辞書を必ず持参すること。							
オフィスアワー	担当授業終了後に実施する。							

授 業 名		英 語 ・ コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン c ・ e
授 業 計 画	学 習 項 目	学 習 内 容 ・ 課 題
第1回	オリエンテーション	(内 容) 到達目標の確認、進め方の説明、自己紹介 (必要な準備) 本授業のシラバスを読む
第2回	Chapter 1 こどもの園保育園	(内 容) 自己紹介 (必要な準備) pp. 6-8の予習、英作文の練習問題をしておく
第3回	Chapter 1 こどもの園保育園	(内 容) 子供達への語りかけ (必要な準備) pp. 9-11の予習
第4回	Chapter 2 実習初日	(内 容) 教室内のこどもの遊び (必要な準備) pp12-14の予習、英作文の練習問題をしておく。
第5回	Chapter 2 実習初日	(内 容) 子供達への語りかけ 英語で「きらきら星」を歌う (必要な準備) pp. 15-17の予習
第6回	Chapter 3 さあ、出かけましょう！	(内 容) 地図を使ってディスカッション (必要な準備) pp. 18-20の予習、英作文の練習問題をしておく。
第7回	Chapter 3 さあ、出かけましょう！	(内 容) リスニング 英語のなぞなぞ (必要な準備) pp.21-23の予習
第8回	グループディスカッション	(内 容) 今までの復習 リスニング (必要な準備) テキストの見直しをしておく。
第9回	Chapter 4 バシャバシャ水しぶき	(内 容) プールでの英語表現 (必要な準備) pp.24-26の予習、英作文の練習問題をしておく。
第10回	Chapter 4 バシャバシャ水しぶき	(内 容) ベア英会話 英語で遊戯歌「桑の木をまわろう」を歌う。 (必要な準備) pp.27-29の予習
第11回	Chapter 5 ホットケーキの日	(内 容) 料理で使う英語表現 (必要な準備) pp. 30-32の予習、英作文の練習問題をしておく。
第12回	Chapter 5 ホットケーキの日	(内 容) ホットケーキのレシピを英語で読む 19世紀の英国詩人クリスティーナ・ロセッティの詩を聴く。 ケーキを作る手遊び唄を歌う。 (必要な準備) pp.33-35の予習
第13回	Chapter 6 本を読んで、お話を聞かせて	(内 容) 絵本の読み聞かせの英語表現 (必要な準備) pp. 36-38の予習、英作文の練習問題をしておく。
第14回	Chapter 6 本を読んで、お話を聞かせて	(内 容) ベア英会話 リスニング問題 「マクドナルドおじさん」を英語で歌う。 (必要な準備) pp. 39-41 の予習
第15回	総復習	(内 容) 日常表現 (必要な準備) テキストの見直し

授 業 名	英語・コミュニケーション d			開 講 学 年	1回生	単 位 数	1単位	
英 文 名	English Communication			開 講 時 期	春学期	必 修 ・ 選 択	必 修	
担 当 者	工藤 敦子			対 象 学 生	幼児教育1yf～yh			
授業の概要	1) テキストの項目にそって文法の「基礎」を確認しながら、文の構造を学んでいく。 2) テキストの「会話表現」にも注目し、自分で「活用」できるよう、その「表現」を習得する。 3) 図書館にある多読用の本に触れる習慣を通して英語に親しみ、各自で楽しみながら読んでいく。							
学 習 成 果 達 成 目 標	1) 英文を作るために必要な文法の基礎を理解する。 2) 「前置詞と動詞」の使い方を理解する。 3) テキストの「会話」を発音し、書けるようにする。							
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テ キ ス ト	『English Writing without Tears』 中村良廣 著 (松柏社) 2016年							
参 考 書	特になし							
留 意 事 項	テキストの演習を中心に授業を進めていくので、各自テキストを用意し、予習をして、日頃の学習をしっかりと積み重ねていくことが大切である。そして授業にはテキストや辞書を忘れず、集中して臨んでほしい。テキストを用意していない場合は「欠席」とみなす。また、多読の課題については、最後の授業での最終提出が評価の前提になるので、以前に提出した場合でも必ず提出する。							
オ フ ィ ス ア ワ ー	授業終了後に連絡を取る。							

授 業 名		英語・コミュニケーション d	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	オリエンテーションとChapter 1 Prepositions 1 . Atの使い方	(内 容) シラバスを基にした授業、テキストに関する説明と Atの演習 (必要な準備) テキスト pp. 1-4の予習 (60分)	
第2回	Atの使い方とオリエンテーション	(内 容) Atの演習の続きとオリエンテーション (必要な準備) テキスト pp. 4-5の予習 (60分)	
第3回	2 . Byの使い方	(内 容) Byの演習全体 (必要な準備) テキスト pp. 6-9の予習 (60分)	
第4回	3 . Forの使い方	(内 容) Forの演習 (必要な準備) テキスト pp. 10-14の予習 (60分)	
第5回	For、4 . Fromの使い方	(内 容) Forの演習の続きとFromの演習全体 (必要な準備) テキスト pp. 15-18予習 (60分)	
第6回	5 . Inの使い方	(内 容) Inの演習 (必要な準備) テキスト pp. 19-24の予習 (60分)	
第7回	In、6 . Ofの使い方	(内 容) Inの演習の続きとOfの演習 (必要な準備) テキスト pp. 25-29の予習 (60分)	
第8回	Of、7 . Onの使い方	(内 容) Ofの演習の続きとOnの演習 (必要な準備) テキスト pp. 30-35の予習 (60分)	
第9回	On、8 . Toの使い方	(内 容) Onの演習の続きとToの演習 (必要な準備) テキスト pp. 36-40の予習 (60分)	
第10回	To、9 . Withの使い方	(内 容) Toの演習の続きとWithの演習 (必要な準備) テキスト pp. 41-46の予習 (60分)	
第11回	With、Chapter 2 Verbs 1. Bringの使い方	(内 容) Withの演習の続きとBringの演習 (必要な準備) テキスト pp. 47-51の予習 (60分)	
第12回	Bringの使い方	(内 容) Bringの演習 (必要な準備) 前回の予習の見直し (30分)	
第13回	2 . Comeの使い方	(内 容) Comeの演習全体 (必要な準備) テキスト pp. 52-55の予習 (60分)	
第14回	3 . Doの使い方	(内 容) Doの演習全体 (必要な準備) テキスト pp. 56-61の予習 (60分)	
第15回	4 . Getの使い方と春学期のまとめ	(内 容) Getの演習全体とまとめ (必要な準備) テキスト pp. 62-67の予習 (60分)	

授業名	英語・コミュニケーション a			開講学年	1回生	単位数	1単位	
英文名	English Communication			開講時期	秋学期	必修・選択	必修	
担当者	山本 典子			対象学生	歴史1回生			
授業の概要	春学期と同様、基本文法はしっかりと身につけます。リーディング、ライティング、リスニングの教材もさらに加えています。日本史や日本文化の情報を讀んだり話したりすることも取り入れます。							
学習成果到達目標	1) 多読、会話につながるような必要な文法の基礎を身につける。 2) 現在形、過去形、未来形、現在完了形を用いて、自分のことを簡単に伝える。 3) 自分の興味ある歴史上の人物、事柄を簡単に英語で説明できる。							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テキスト	『Focus on Basic English for Communication』樋口千春・福富かおる・Richard Carpenter 松柏社 春学期に使用したテキストの続きをします。							
参考書	特になし							
留意事項	後期もテキスト中心に授業を進めますが、音読や発表の機会が増えます。予習、復習、宿題はしっかりとやっておいてください。評価方法は上記のとおりですが、前期同様、授業態度によってはそのとおりではありません。							
オフィスアワー	担当授業終了後に実施する。							

授 業 名		英語・コミュニケーション a
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	オリエンテーションと 動詞の時制の復習	(内 容) 動詞の時制および文型の練習問題 (必要な準備) 動詞の過去形、文型の復習をしておくこと
第2回	Unit 13 過去分詞のもう1つの働き? 受動態	(内 容) 過去分詞のおさらい 能動態から受動態へ書き換える練習 (必要な準備) テキスト pp. 54-57の予習
第3回	Unit 14 YES/NOとNOT 疑問文	(内 容) 疑問文, 否定文の作り方。 実際に作ってみる。 (必要な準備) テキスト pp. 58-61の予習
第4回	Unit 15 'When', 'Who', 'Where' and 'What'	(内 容) YES/NO疑問文の復習 Wh-疑問文の作成 (必要な準備) テキスト pp. 62-65の予習
第5回	Unit 16 思いを伝える助動詞?	(内 容) 助動詞の使い方。否定文、疑問文。 (必要な準備) テキスト pp. 66-69の予習
第6回	Unit 17 過去を表さない'would'と'could'	(内 容) Unit 16助動詞の復習 丁寧な依頼文を作る。 (必要な準備) テキストpp. 70-73の予習
第7回	Unit 18 名詞の働きをする動詞? 動名詞・不定詞	(内 容) 名詞の働きを確認。 動名詞・不定詞の使い方。 (必要な準備) テキスト pp. 74-77の予習
第8回	Unit 19 形容詞・副詞の働きをする動詞? 不定詞	(内 容) 形容詞・副詞の役割の確認 形容詞的用法・副詞的用法の不定詞の演習 (必要な準備) テキストpp. 78-81の予習
第9回	Unit 20 'Hand in hand'の意味? 接続詞	(内 容) 等位接続詞の演習 (必要な準備) テキスト pp. 82-85の予習
第10回	Unit 21 「いつ」でない'when'?	(内 容) 等位接続詞の復習 その他の接続詞を使って文を作る。 (必要な準備) テキスト pp. 86-89の予習
第11回	Unit 22 'Good', 'Gooder', 'Goodest'?	(内 容) 比較級の練習。 例文を作ってみる。 (必要な準備) テキスト pp. 90-93の予習
第12回	Unit 23 「誰が」でない'who'& 「どれ」でない' which'	(内 容) 関係代名詞の理解と演習 (必要な準備) テキスト pp. 94-97の予習
第13回	Unit 24 過去と現在のつながりを表す?	(内 容) 関係代名詞の復習 現在完了形の理解と演習 不規則動詞の変化の確認 (必要な準備) テキスト pp. 98-101の予習
第14回	Unit 24 現在完了形の復習	(内 容) 現在完了形を含む時制の復習 小テスト (必要な準備) テキスト pp. 98-101の復習
第15回	秋学期の復習	(内 容) まとめの小テスト (必要な準備) 疑問文の作り方、時制、関係代名詞をしっかりと復習しておくこと。

授 業 名	英語・コミュニケーション b		開 講 学 年	1回生	単 位 数	1単位		
英 文 名	English Communication		開 講 時 期	秋学期	必修・選択	必修		
担 当 者	工藤 敦子		対 象 学 生	幼児教育1ya~yc				
授業の概要	<p>1) テキストの項目にそって文法の「基礎」を確認しながら、文の構造を学んでいく。 2) テキストの「会話表現」にも注目し、自分で「活用」できるよう、その「表現」を習得する。 3) 習慣として多読用の本を各自で楽しみながら読んでいく。</p>							
学 習 成 果 達 成 目 標	<p>1) 英文を作るために必要な文法の基礎を理解する。 2) 「前置詞と動詞」の使い方を理解する。 3) テキストの「会話」を発音し、書けるようにする。</p>							
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テ キ ス ト	『Getting Back To Basics』 中村良廣 著 (松柏社) 2008年							
参 考 書	特になし							
留 意 事 項	テキストの演習を中心に授業を進めていくので、各自テキストを用意し、予習をして、日頃の学習をしっかりと積み重ねていくことが大切である。そして授業にはテキストや辞書を忘れず、集中して臨んでほしい。テキストを用意していない場合は「欠席」とみなす。また、多読用の課題については、最後の授業での最終提出が評価の前提になるので、以前に提出した場合でも必ず提出する。							
オ フ ィ ス ア ワ ー	授業終了後に連絡を取る。							

授 業 名		英語・コミュニケーション b	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	オリエンテーションとUnit 1 Prepositions 1. Atの使い方	(内 容) シラバスを基にした授業、テキストに関する説明とAtの演習 (必要な準備) テキスト pp. 1-4の予習 (60分)	
第2回	At、2. By、3. Forの使い方	(内 容) Atの演習の続きとBy、Forの演習 (必要な準備) テキスト pp. 4-10の予習 (60分)	
第3回	For、4. Fromの使い方	(内 容) Forの演習の続きとFromの演習全体 (必要な準備) テキスト pp. 11-17の予習 (60分)	
第4回	5. In、6. Ofの使い方	(内 容) In、Ofの演習 (必要な準備) テキスト pp. 18-23の予習 (60分)	
第5回	Of、7. Onの使い方	(内 容) Ofの演習の続きとOnの演習 (必要な準備) テキスト pp. 23-28の予習 (60分)	
第6回	On、8. Toの使い方	(内 容) Onの演習の続きとToの演習全体 (必要な準備) テキスト pp. 28-34の予習 (60分)	
第7回	9. Withの使い方	(内 容) Withの演習全体 (必要な準備) テキスト pp. 35-38の予習 (60分)	
第8回	Unit 2 Verbs 1. Comeの使い方	(内 容) Comeの演習全体 (必要な準備) テキスト pp. 39-42の予習 (60分)	
第9回	2. Get、3. Giveの使い方	(内 容) GetとGiveの演習 (必要な準備) テキスト pp. 43-47の予習 (60分)	
第10回	Give、4. Goの使い方	(内 容) Giveの演習の続きとGoの演習全体 (必要な準備) テキスト pp. 47-51の予習 (60分)	
第11回	5. Have、6. Keepの使い方	(内 容) HaveとKeepの演習 (必要な準備) テキスト pp. 52-56の予習 (60分)	
第12回	Keep、7. Lookの使い方	(内 容) Keepの演習の続きとLookの演習全体 (必要な準備) テキスト pp. 57-60の予習 (60分)	
第13回	8. Make、9. Sayの使い方	(内 容) MakeとSayの演習 (必要な準備) テキスト pp. 61-65の予習 (60分)	
第14回	Say、10. Seeの使い方	(内 容) Sayの演習の続きとSeeの演習全体 (必要な準備) テキスト pp. 66-69の予習 (60分)	
第15回	11. Take、「定型表現」の使い方と秋学期のまとめ	(内 容) Takeの演習全体と「定型表現」に関する解説とまとめ (必要な準備) テキスト pp. 70-73と「定型表現」のプリントの予習 (60分)	

授業名	英語・コミュニケーション c・e			開講学年	1回生	単位数	1単位	
英文名	English Communication			開講時期	秋学期	必修・選択	必修	
担当者	早瀬 和栄			対象学生	幼児教育1yd~ye・yi~yj			
授業の概要	春学期の授業をさらに発展させた形で、実際のコミュニケーションの場で多用される口語表現を身につけ、相互交流的な英会話能力を伸ばす。リスニングとライティング。							
学習成果到達目標	1) 基本単語・基本構文の習得 2) リスニングの習得 3) 英語によるコミュニケーション能力の向上							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力))
テキスト	『保育英語』 赤松直子(成美堂)							
参考書	保育英語検定受験予定の者は、各自の英語力に応じたテキスト・問題集を購入し、学習に取り組むことが望ましい。 『保育英語検定テキスト3級(改訂版)』社団法人保育英語検定協会著(本の泉社)、2057円 『保育英語検定テキスト2級(改訂版)』社団法人保育英語検定協会著(本の泉社)、2057円 『保育英語ワークブック(保育英語検定3級問題集)』社団法人 国際子育て支援機構著 1472円 『保育英語ワークブック(保育英語検定2級問題集)』社団法人 国際子育て支援機構著 1472円							
留意事項	本授業では定期試験を実施する。 5回以上の欠席は認めないが、正当な理由がある場合は考慮しますので、必ず報告すること。 授業には辞書を必ず持参すること。							
オフィスアワー	担当授業終了後に実施する。							

授 業 名		英語・コミュニケーション c・e	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	役立つ日常会話	(内 容) 保育英語について考える (必要な準備) シラバスを読む	
第2回	Chapter 7 すいかで遊ぼう	(内 容) 日本の年中行事に関する英語表現 (必要な準備) pp.42-44の予習、英作文の練習問題をしておく。	
第3回	Chapter 7 すいかで遊ぼう	(内 容) デザートについてのペア英会話 (必要な準備) pp.45-47の予習	
第4回	Chapter 8 お誕生日おめでとう	(内 容) お誕生日会での英語表現 (必要な準備) pp.48-50の予習、英作文の練習問題をしておく。	
第5回	Chapter 8 お誕生日おめでとう	(内 容) お誕生日会での遊び 「なわとび唄」を英語で歌う。 (必要な準備) pp.51-53の予習	
第6回	Chapter 9 こどもと遊び	(内 容) 英国圏の国における子供の遊び文化 (必要な準備) pp.54-56の予習、英作文の練習問題をしておく。	
第7回	Chapter 9 こどもと遊び	(内 容) 園児へのグラウンドでの遊びをうながす語りかけ (必要な準備) pp.57-59の予習	
第8回	復習	(内 容) テキストの復習 グループディスカッション (必要な準備) テキストの見直しをしておく。	
第9回	Chapter 10 赤ちゃんニュース	(内 容) 赤ちゃん保育での英語表現 (必要な準備) pp.60-62の予習、英作文の練習問題をしておく。	
第10回	Chapter 10 赤ちゃんニュース	(内 容) 赤ちゃんへの語りかけ 英語の子守唄を歌う (必要な準備) pp.63-65の予習	
第11回	Chapter 11 歯の妖精	(内 容) 歯磨き指導の英語表現 (必要な準備) pp.66-68の予習、英作文の練習問題をしておく。	
第12回	Chapter 11 歯の妖精	(内 容) ペア英会話 妖精の詩を読みます。 (必要な準備) pp.69-71の予習	
第13回	Chapter 12 緑の目の魔女	(内 容) お遊戯会での英語表現 (必要な準備) pp.72-74の予習、英作文の練習問題をしておく。	
第14回	Chapter 12 緑の目の魔女	(内 容) ペア英会話 リスニング (必要な準備) pp.75-77の予習	
第15回	総復習	(内 容) 日常で使える英語表現 (必要な準備) テキストの見直し	

授業名	英語・コミュニケーション d			開講学年	1回生	単位数	1単位	
英文名	English Communication			開講時期	秋学期	必修・選択	必修	
担当者	工藤 敦子			対象学生	幼児教育1yf～yh			
授業の概要	<p>1) 春学期と同じように文法の「基礎」を確認していくが、テキストの最後のChapterにかけては、「会話設定」の問題で力が試されるので、その演習に対応できるようになることをめざす。</p> <p>2) 「会話表現」においても、「応用」できるようにする。</p> <p>3) 習慣として多読用の本を各自で楽しみながら読んでいく。</p>							
学習成果到達目標	<p>1) 英文を作るために必要な文法の基礎を理解する。</p> <p>2) 「動詞」の使い方と「会話の定型表現」を理解する。</p> <p>3) テキストの「会話」を発音し、書けるようにする。</p>							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テキスト	『English Writing without Tears』 中村良廣 著 (松柏社) 2016年							
参考書	特になし							
留意事項	今学期もテキストの演習を中心に授業を進めていく。予習では春学期よりも正確な文を作れるよう取り組んでほしい。テキストと辞書を忘れないことや授業に集中して臨むことは、春学期と同様である。テキストを用意していない場合は「欠席」とみなす。また、多読の課題については、最後の授業での最終提出が評価の前提になるので、以前に提出した場合でも必ず提出する。							
オフィスアワー	授業終了後に連絡を取る。							

授 業 名		英語・コミュニケーション d
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	オリエンテーションと5. Giveの使い方	(内 容) シラバスを基にした授業に関する説明とGiveの演習 (必要な準備) テキスト pp. 68-73の予習 (60分)
第2回	Give、6. Goの使い方	(内 容) Giveの演習の続きとGoの演習 (必要な準備) テキスト pp. 74-80の予習 (60分)
第3回	Go、7. Haveの使い方	(内 容) Goの演習の続きとHaveの演習 (必要な準備) テキスト pp. 81-86の予習 (60分)
第4回	Have、8. Keepの使い方	(内 容) Haveの演習の続きとKeepの演習 (必要な準備) テキスト pp. 87-92の予習 (60分)
第5回	Keep、9. Lookの使い方	(内 容) Keepの演習の続きとLookの演習 (必要な準備) テキスト pp. 93-96の予習 (60分)
第6回	Look、10. Makeの使い方	(内 容) Lookの演習の続きとMakeの演習 (必要な準備) テキスト pp. 97-101の予習 (60分)
第7回	Make、11. Putの使い方	(内 容) Makeの演習の続きとPutの演習全体 (必要な準備) テキスト pp. 102-106の予習 (60分)
第8回	12. Say、13. Seeの使い方	(内 容) Sayの演習全体とSeeの演習 (必要な準備) テキスト pp. 107-115の予習 (60分)
第9回	See、14. Takeの使い方	(内 容) Seeの演習の続きとTakeの演習 (必要な準備) テキスト pp. 116-121の予習 (60分)
第10回	Take、15. Wantの使い方とChapter 3 Formulaic Expressions 1. A)挨拶をかわす	(内 容) Takeの演習の続き、Wantと1. A)の演習全体 (必要な準備) テキスト pp. 122-128の予習 (60分)
第11回	1. B) 紹介をする 2. A) 質問をする B) 聞き返す C) 道を尋ねる	(内 容) 1. B)、2. A)、B)、C)の演習全体 (必要な準備) テキスト pp. 129-135の予習 (60分)
第12回	3. A) 提案する B) 感謝する	(内 容) 3. A)の演習全体とB)の演習 (必要な準備) テキスト pp. 136-141の予習 (60分)
第13回	3. B)、C) 謝る D) 依頼する	(内 容) 3. B)の演習の続き、C)の演習全体とD)の演習 (必要な準備) テキスト pp. 141-146の予習 (60分)
第14回	3. D)、E) 断る F) ほめる	(内 容) 3. D)の演習の続き、E)の演習全体とF)の演習 (必要な準備) テキスト pp. 146-152の予習 (60分)
第15回	3. F)、G) 電話をかける Chapter 4 Other Useful Expressionsと秋学期のまとめ	(内 容) 3. F)の演習の続き、G)の演習全体、Chapter 4の演習に関する解説とまとめ (必要な準備) テキスト pp. 153-164の予習 (60分)

授業名	日本語表現法 a・b			開講学年	1回生	単位数	2単位	
英文名	Japanese Writing			開講時期	春・秋学期	必修・選択	必修	
担当者	乾 真理子			対象学生	歴史1回生、幼児教育1ya～yb			
授業の概要	日本語の基礎知識を学び、学生、社会人として必要な文章表現力を修得するための訓練を行う。							
学習成果到達目標	1) 日本語の基本的な能力を習得する 2) 今後の日本語能力を鍛えてゆく方法を習得する							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (自己表現能力	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力)			
テキスト	使用しない。							
参考書	随時紹介する。							
留意事項	練習問題や文章作成など、積極的に取り組むことを望む。毎回国語辞典またはそれに類するものを持参すること。							
オフィス アワー	授業初回に提示する。							

授 業 名		日本語表現法 a・b	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	授業の進め方	(内 容) 授業の進め方と授業内容について学ぶ。ノートをとることの必要性を理解し、ノートの取り方を練習する。 (必要な準備) シラバスを読んでおくこと。(10分)	
第2回	仮名遣い	(内 容) 仮名遣いの基本を復習する。原稿用紙の使用方を学ぶ。 (必要な準備) 前回の講義の復習をする。(30分)	
第3回	漢字等の使用の目安	(内 容) 表記の目安を学ぶ。 (必要な準備) 前回の講義の復習をする。(30分)	
第4回	小論文 書き方 (口語と文語)	(内 容) 口語と文語、敬体と常体の違いを学ぶ。 (必要な準備) 課題文を完成させてくる。(30分)	
第5回	小論文 書き方 (文章の構成)	(内 容) 小論文の一般的構成を学ぶ。 (必要な準備) 課題文を完成させてくる。(30分)	
第6回	小論文 作成	(内 容) 小論文を作成する。 (必要な準備) 配布資料を読んでおく。(20分)	
第7回	敬語について	(内 容) 敬語の種類と用法を学ぶ。 (必要な準備) 配布資料を読んでおく。(30分)	
第8回	敬語についての練習問題	(内 容) 待遇表現を含む文章を作成する。 (必要な準備) 敬語の用法についてまとめておく。(30分)	
第9回	敬語を用いた会話	(内 容) 敬語使用の実践練習を行う。 (必要な準備) 敬語の用法についてまとめておく。(30分)	
第10回	手紙の書き方	(内 容) 手紙の書き方を学ぶ。 (必要な準備) 配布資料を読んでおく。(30分)	
第11回	手紙の作成	(内 容) 手紙を作成する。 (必要な準備) 手紙の書き方について復習しておく。	
第12回	ビジネス文書 書き方	(内 容) ビジネス文書の書き方を学ぶ。 (必要な準備) 配布資料を読んでおく。(30分)	
第13回	ビジネス文書 作成	(内 容) ビジネス文書を作成する。 (必要な準備) ビジネス文書の書き方についてまとめておく。(30分)	
第14回	慣用句	(内 容) 慣用句について学ぶ。 (必要な準備) 課題を完成させる。(30分)	
第15回	まとめ	(内 容) これまでの復習を行う。 (必要な準備) 疑問点などをまとめておく。(30分)	

授業名	日本語表現法 c			開講学年	1回生	単位数		
英文名	Japanese Writing			開講時期	春学期	必修・選択	選択	
担当者	川島 智生			対象学生	幼児教育1yc~yd			
授業の概要	日本語の基礎知識を学び、学生、社会人として必要な文章表現力を修得するための訓練を行う。							
学習成果到達目標	1) 日本語の基本的な能力が身に付いている。 2) 今後の日本語能力を鍛えてゆく方法が分かっている。							
評価方法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (自由表現能力	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テキスト	使用しない。							
参考書	随時紹介する。							
留意事項	練習問題や文章作成など、積極的にとりくむことを望む。毎回国語辞典またはそれに類するものを持参すること。							
オフィス アワー	授業初回に提示する。							

授 業 名		日本語表現法 C
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	授業の進め方	(内 容) 授業の進め方と授業内容について説明する。 (必要な準備) シラバスを読んでおく。
第2回	仮名遣い	(内 容) 仮名遣いの説明をする。 (必要な準備) 前回の講義の復習。
第3回	漢字等の使用の目安	(内 容) 表記の目安の説明。 (必要な準備) 前回の講義の復習。
第4回	小論文 書き方 (口語と文語)	(内 容) 口語と文語、敬体と常体の違いを説明する (必要な準備) 課題文を完成させてくる。
第5回	小論文 書き方 (文章の構成)	(内 容) 小論文の一般的構成を説明する。 (必要な準備) 課題文を完成させてくる。
第6回	小論文 作成	(内 容) 小論文を作成する。 (必要な準備) 配布資料を読んでおく。
第7回	敬語について	(内 容) 敬語の種類と用法を説明する。 (必要な準備) 配布資料を読んでおく。
第8回	敬語についての練習問題	(内 容) 待遇表現を含む文章を作成する。 (必要な準備) 敬語の用法についてまとめておく。
第9回	敬語を用いた会話	(内 容) 敬語使用の実践練習をする。 (必要な準備) 敬語の用法についてまとめておく。
第10回	手紙の書き方	(内 容) 手紙の書き方の説明。 (必要な準備) 配布資料を読んでおく。
第11回	手紙の作成	(内 容) 手紙を作成する。 (必要な準備) 手紙の書き方について復習しておく。
第12回	ビジネス文書 書き方	(内 容) ビジネス文書の書き方の説明。 (必要な準備) 配布資料を読んでおく。
第13回	ビジネス文書 作成	(内 容) ビジネス文書を作成する。 (必要な準備) ビジネス文書の書き方についてまとめておく。
第14回	慣用句	(内 容) 慣用句について説明する。 (必要な準備) 課題を完成させる。
第15回	まとめ	(内 容) これまでの復習。 (必要な準備) 疑問点などをまとめておく。

授 業 名	日本語表現法 d・e・f			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	
英 文 名	Japanese Writing			開 講 時 期	春学期	必修・選択	必修	
担 当 者	土井 哲治			対 象 学 生	幼児教育1ye~yf、yg~yh、yi~yj			
授業の概要	<p>短期大学で授業を受けたり、社会で活躍したりするのに必要な日本語能力を修得するため、日本語に関して不足している知識と、未整理のままでも有効活用できていない知識を、体系的に整理して講義し、講義内容の理解を練習問題で確認する。併せて、定型文の学習と語彙訓練を行い、日本語能力の基本を完成する。</p>							
学 習 成 果 達 成 目 標	<p>1) 日本語の基本的な能力が身に付いている。 2) 今後の日本語能力を鍛えてゆく方法が分かっている。</p>							
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力)	(課題発見・解決能力)	
テ キ ス ト	配布プリント							
参 考 書	使用しない。							
留 意 事 項	当然のことながら、国語辞書を持参するとより効果的な学習ができる。							
オ フ ィ ス ア ワ ー	金曜日午後12から15時まで							

授 業 名		日 本 語 表 現 法 d ・ e ・ f	
授 業 計 画	学 習 項 目	学 習 内 容 ・ 課 題	
第1回	導入	(内 容) 授業概要と日本語能力の問題点の纏説。国語力診断小テスト。 (必要な準備)	
第2回	仮名遣い	(内 容) 内閣総理大臣告示に基づいた仮名遣いの学習。 (必要な準備) 前回確認テストの復習。	
第3回	漢字等の使用の目安	(内 容) 内閣官房長官通知に基づいた表記の目安の学習。敬語力診断小テスト。 (必要な準備) 前回講義の復習。	
第4回	動詞の尊敬・語彙練習 1	(内 容) 動詞の尊敬の講義、語彙小テスト。 (必要な準備) 前回確認テストの復習。	
第5回	動詞の謙譲語 ・ 語彙練習 2	(内 容) 動詞の謙譲語 の講義、語彙小テスト。 (必要な準備) 前回講義の復習。敬語練習問題の完全理解。	
第6回	動詞の聞手尊敬・語彙練習 3	(内 容) 動詞の聞手尊敬の講義、語彙小テスト。 (必要な準備) 前回講義の復習。敬語練習問題の完全理解。	
第7回	動詞の特殊な敬語・語彙練習 4	(内 容) 動詞の特殊な敬語の講義、語彙小テスト。 (必要な準備) 前回講義の復習。敬語練習問題の完全理解。	
第8回	ラ変型活用の語の尊敬・語彙練習 5	(内 容) 形容詞等の尊敬の講義、語彙小テスト。 (必要な準備) 前回講義の復習。敬語練習問題の完全理解。	
第9回	ラ変型活用の語の丁寧・語彙練習 6	(内 容) 形容詞等の丁寧の講義、語彙小テスト。 (必要な準備) 前回講義の復習。敬語練習問題の完全理解。	
第10回	敬語的表現・語彙練習 7	(内 容) 婉曲表現等の講義、語彙小テスト。 (必要な準備) 前回講義の復習。敬語練習問題の完全理解。	
第11回	手紙文・語彙練習 8	(内 容) 手紙文の形式とマナーの講義、語彙小テスト。 (必要な準備) 前回講義の復習。敬語練習問題の完全理解。	
第12回	手紙文課題練習	(内 容) 手紙文を作成。 (必要な準備) 前回講義の復習。課題下準備。	
第13回	事務的文章・語彙練習 9	(内 容) 事務的文章の形式の講義、語彙小テスト。 (必要な準備) 前回講義の復習。	
第14回	事務的文章課題練習	(内 容) 事務的文章の作成。 (必要な準備) 前回講義の復習。課題下準備。	
第15回	まとめ	(内 容) 総括と質疑応答。 (必要な準備) 質問の用意	

授業名	人権と社会 a			開講学年	1回生	単位数	2単位	
英文名	Human Rights and Society			開講時期	春学期	必修・選択	必修	
担当者	湯浅 俊郎			対象学生	歴史1回生			
授業の概要	<p>人権は、歴史的にみればわかるように、固定的なものではない。人権の主張があり、それが支持を得て社会的に承認され、法的に認められること等を通して、人権として定着してくる。このように人権は人々の努力によって拡大、伸張するものであることを把握する。授業では、具体的にいくつかの問題を取りあげ、人権と人権問題、その改善と解決の方法を考えていく（授業の進展度合いにより予定の変更もあります）。</p>							
学習成果到達目標	<p>1) 「グローバル化」とともに少子高齢社会が進行している日本社会において、子ども・高齢者の世代間交流、障害者との共生・共育についてどのような問題があるのかについて理解できる。 2) 「グローバル化」とともに少子高齢社会が進行している日本社会において、男女共同参画社会の実現についてどのような問題があるのかについて理解できる。 3) 「グローバル化」とともに人口減少が進行し労働力が弱体化していく日本社会において、女性の社会進出は重要なものとなる。女性労働において、どのような問題があるのかについて理解できる。</p>							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力)	(課題発見・解決能力)	
テキスト	授業時に資料を配布する							
参考書	適宜紹介する							
留意事項	積極的・主体的な学習参加を期待する							
オフィスアワー	毎週1回（休業期間中を除く。）オフィスアワーを設けます。 オフィスアワーに設定している時間帯であっても、会議や出張などで在室できない場合がありますので、予めご承知おきください。							

授 業 名		人権と社会 a
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	ガイダンス 人間の概念	(内 容) 本講義の概要について説明する。人間について考察する。 (必要な準備)
第2回	人に備わる利他性	(内 容) 心理学以外の社会科学において「心」をどのように扱ってきちやのか考察する。 (必要な準備) 前講の復習(60分)。
第3回	差別と偏見 --「行動」から「心」を探る	(内 容) 我々が普段おこなう選択と選好の問題に関して考察する。 (必要な準備) 前講の復習(60分)。
第4回	差別と偏見 --市場理論からの分析	(内 容) 市場理論から差別と偏見の問題について考察する。 (必要な準備) 前講の復習(60分)。
第5回	差別と偏見 --エスニシティに関する住民の独立意向を考察する	(内 容) スコットランドやカナダのケベック州の独立運動について考察する。 (必要な準備) 前講の復習(60分)。
第6回	ジェンダーの視点について	(内 容) ジェンダーの視点について考察する (必要な準備) 前講の復習(60分)。
第7回	男女の行動の違いについて --リスクの取り方に性差あり?	(内 容) リスクの取り方の性差について考察する。 (必要な準備) 前講の復習(60分)。
第8回	男女の行動の違いについて --性差の刷り込みの影響	(内 容) 性差の刷り込みの影響について考察します。 (必要な準備) 前講の復習(60分)。
第9回	男女の行動の違いについて --社会環境が性差を生む?	(内 容) 社会環境により性差を生む側面について考察する。 (必要な準備) 前講の復習(60分)。
第10回	男女の行動の違いについて --女性は交渉を避ける傾向あり?	(内 容) 女性らしさというジェンダー規範の問題について考査する。 (必要な準備) 前講の復習(60分)。
第11回	男女の行動の違いについて --性差を超えた取り組みを	(内 容) 人との関わりかたの差について考察し、性差を超えた取り組みについて考える。 (必要な準備) 前講の復習(60分)。
第12回	女性労働の問題 --女性の社会進出の現状	(内 容) 国際比較をまじえて女性の社会進出の現状について考察する。 (必要な準備) 前講の復習(60分)。
第13回	女性労働の問題 --女性労働の壁について	(内 容) 女性労働の制度的な壁となっている問題について考察する。 (必要な準備) 前講の復習(60分)。
第14回	女性労働の問題について --社会保障のありかた	(内 容) 女性労働における社会保障のありかたについて考察する。 (必要な準備) 前講の復習(60分)。
第15回	まとめ	(内 容) 本講義のポイント整理。 (必要な準備) 定期試験にむけた質問事項(60分)

授業名	人権と社会 b・c			開講学年	1回生	単位数	2単位	
英文名	Human Rights and Society			開講時期	秋学期	必修・選択	必修	
担当者	向出 佳司			対象学生	幼児教育1ya～ye、yf～yj			
授業の概要	<p>人権は、歴史的にみればわかるように、固定的なものではない。人権の主張があり、それが支持を得て社会的に承認され、法的に認められること等を通して、人権として定着してくる。このように人権は人々の努力によって拡大、伸張するものであることを把握する。授業では、具体的にいくつかの問題を取りあげ、人権と人権問題、その改善と解決の方法を考えていく（授業の進展度合いにより予定の変更もあります）。</p>							
学習成果 到達目標	<p>1) 「グローバル化」とともに少子高齢社会が進行している日本社会において、子ども・高齢者の世代間交流、障害者との共生・共育についてどのような問題があるのかについて理解できる。 2) 「グローバル化」とともに少子高齢社会が進行している日本社会において、男女共同参画社会の実現についてどのような問題があるのかについて理解できる。 3) 「グローバル化」とともに人口減少が進行し労働力が弱体化していく日本社会において、女性の社会進出は重要なものとなる。女性労働において、どのような問題があるのかについて理解できる。</p>							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テキスト	授業時に資料を配布する							
参考書	適宜紹介する							
留意事項	積極的・主体的な学習参加を期待する							
オフィス アワー	担当授業終了後に実施する。							

授 業 名		人権と社会 b・c
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	ガイダンス 人間の概念	(内 容) 本講義の概要について説明する。人間について考察する。 (必要な準備)
第2回	人権の概念	(内 容) 社会権・平等権・自由権について考察する。 (必要な準備) 日本国憲法の人権条項を準備する。
第3回	人権侵害の概念	(内 容) 尊厳・平等・自由が否定される事例について考察する。 (必要な準備) 世界人権宣言を準備する。
第4回	障害者問題	(内 容) 障害者との共生・共育の3つの理念について理解する。 (必要な準備) 関連報道記事を準備する。
第5回	高齢者問題	(内 容) 高齢社会下における高齢者の人権について考察する。 (必要な準備) 関連報道記事を準備する。
第6回	子ども・家族の問題	(内 容) 少子社会における子ども・家族の人権について考察する。 (必要な準備) 関連報道記事を準備する。
第7回	性の問題	(内 容) 男女共同参画社会への道のりについて理解する。 (必要な準備) 関連報道記事を準備する。
第8回	男女の行動の違いについて --性差の刷り込みの影響	(内 容) 性差の刷り込みの影響について考察します。 (必要な準備) 前講の復習。
第9回	男女の行動の違いについて --社会環境が性差を生む?	(内 容) 社会環境により性差を生む側面について考察する。 (必要な準備) 前講の復習
第10回	男女の行動の違いについて --女性は交渉を避ける傾向あり?	(内 容) 女性らしさというジェンダー規範の問題について考査する。 (必要な準備) 前講の復習。
第11回	性差を超えた取り組み	(内 容) 人との関わりかたの差について考察し、性差を超えた取り組みについて考える。 (必要な準備) 前講の復習。
第12回	女性労働の問題 --女性の社会進出の現状	(内 容) 国際比較をまじえて女性の社会進出の現状について考察する。 (必要な準備) 前講の復習。
第13回	女性労働の問題 --女性労働の壁について	(内 容) 女性労働の制度的な壁となっている問題について考察する。 (必要な準備) 前講の復習。
第14回	女性労働の問題について --社会保障のありかた	(内 容) 女性労働における社会保障のありかたについて考察する。 (必要な準備) 前講の復習。
第15回	まとめ	(内 容) 本講義のポイント整理。 (必要な準備) 定期試験にむけた質問事項。

授業名	情報処理 a・b・c・d・f			開講学年	1回生	単位数	2単位	
英文名	Information Processing			開講時期	春・秋学期	必修・選択	必修	
担当者	乾 真理子			対象学生	歴史1回生、幼児教育1ya~yb、yc~yd、ye~yf、yi~yj			
授業の概要	<p>情報化社会において、適切に情報や情報機器を取り扱える人材育成をめざし、その基本的な情報技術や知識を習得することを目的とする。本科目では主に文章編集ソフト、表計算ソフト、プレゼンテーションソフトなどの操作方法を、大学での学習や就職先での実践を想定した課題に取り組むことにより習得する。</p>							
学習成果到達目標	<p>1) Microsoft Wordによる文書入力・整形、図表の作成・挿入などの操作ができる。 2) Microsoft Excelによるデータ入力、関数を用いた計算、グラフや表の作成・整形などができる。 3) Microsoft PowerPointによるスライド作成、図表の挿入・整形などができる。</p>							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (ITリテラシ-	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力	()		
テキスト	使用しない。授業毎にプリントを配布							
参考書	使用しない。							
留意事項	毎回の授業の内容は前回の授業内容をふまえたものであるため、欠席をしないように心がけること。							
オフィス アワー	初回の授業で連絡します。							

授業名	情報処理 a・b・c・d・f	
授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	ガイダンスとPCの基本操作	(内 容) 授業内容の確認をする。Gmailの使用方法を理解し、メールの送受信を行う。 (必要な準備) パスワードを持参する。シラバスを読んでおく。(20分)
第2回	PowerPointの基本操作 1 イラストの作成	(内 容) PowerPointで自己紹介用の資料作成を行う。図形を用いたイラストを挿入する。 (必要な準備) 前回の復習をしておく。(20分)
第3回	PowerPointの基本操作 2 表の作成・写真の挿入	(内 容) PowerPointで自己紹介用の資料作成を行う。表や写真を挿入する。 (必要な準備) 自己紹介用の写真を用意する。(20分)
第4回	PowerPointによるプレゼンテーション	(内 容) PowerPointで作成した自己紹介用の資料を用い、プレゼンテーションを行う。 (必要な準備) 自己紹介用の資料を完成させておく。(60分)
第5回	Wordの基本操作 (文書作成と整形)	(内 容) 要旨の作成を通して、Wordによる文書作成と整形を学ぶ。 (必要な準備) 前回の復習をしておく。(20分)
第6回	Wordの基本操作 (表の作成)	(内 容) 複数の表の作成を行う。 (必要な準備) 前回の復習をしておく。(20分)
第7回	Wordによる案内文の作成	(内 容) 案内文の作成を行う。 (必要な準備) 前回の復習をしておく。(20分)
第8回	Wordによるはがきの作成	(内 容) 年賀状又は暑中見舞いのはがきを作成する。 (必要な準備) 前回の復習をしておく。(20分)
第9回	Excelの基本操作	(内 容) 合計や平均など基本的関数の操作を学ぶ。 (必要な準備) 前回の復習をしておく。(20分)
第10回	Excelによる表、グラフの作成	(内 容) データ入力、表・グラフの作成を学ぶ。 (必要な準備) 前回の復習をしておく。(20分)
第11回	Excelによるデータベースの活用	(内 容) データベース機能を理解し、データベースの活用を行う。 (必要な準備) 前回の復習をしておく。(20分)
第12回	Excelとワードの活用 課題作成 内容の検討	(内 容) 習得したテクニックを用いて課題作成を行う。 (必要な準備) 前回の復習をしておく。(20分)
第13回	Excelとワードの活用 課題作成 完成	(内 容) 習得したテクニックを用いて課題作成を行う。図や写真などを挿入し、完成させる。 (必要な準備) 前回の復習をしておく。(20分)
第14回	学習成果の発表	(内 容) 課題を発表する。 (必要な準備) 前回までの課題を完成させておく。(30分)
第15回	WordとExcelの活用	(内 容) データを連結させる。宛名ラベルの作成を行う。 (必要な準備) 前回までの課題を完成させておく。(30分)

授業名	情報処理 e			開講学年	1回生	単位数	2単位	
英文名	Information Processing			開講時期	秋学期	必修・選択	必修	
担当者	岩佐 真代			対象学生	幼児教育1yg～yh			
授業の概要	現在、パーソナルコンピューターを介した記録や情報検索などが日常におこなわれ必要不可欠となっている。コンピューターを用いた基本的な情報処理スキルを習得するため、本科目では文章編集ソフト、表計算ソフト、プレゼンテーションソフトなどの使い方や活用方法、インターネットを用いた情報検索などについての実習をおこなう。また、インターネットや情報機器を使用するにあたっての注意事項についても併せて学習する。							
学習成果到達目標	1) Microsoft Wordによる文書入力・整形、図表の作成・挿入などの操作ができるようになる 2) Microsoft Excelによるデータ入力、関数を用いた計算、グラフや表の作成・整形などができるようになる 3) Microsoft PowerPointによるスライド作成、図表の挿入・整形などができるようになる							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (実践力)	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力 ()	課題発見・解決能力 ()			
テキスト	使用しない。授業毎にプリントを配布							
参考書	使用しない。							
留意事項	情報処理室のパソコンで各自作業を行いますので、入学時に配布されたユーザーIDとパスワードを毎回必ず持参してください。 2回目以降はUSBメモリにデータを保存しますので、毎回USBメモリを持参してください。容量やメーカーは問いませんので各自で準備してください。 毎回の授業の内容は前回の授業内容をふまえたものであるため、欠席をしないように心がけること。							
オフィス アワー	研究室前に日時を貼付するので、確認してください。							

授 業 名		情報処理 e
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	Windowsの基本操作	(内 容) フォルダ作成、Gメールの送受信など (必要な準備) IDとパスワード、メール利用方法の冊子を必ず持参 自分の所有する携帯電話(スマートフォン等)の契約内容(データ通信量、料金形態等)を確認しておく シラバスの内容を確認する(30分)
第2回	Word 1(基本操作)	(内 容) USBメモリ使用上の注意 コピー&貼り付け、書式設定、文字カウントなど (必要な準備) USBメモリの準備 前回の復習(30分)
第3回	Word 2(文書作成と整形)	(内 容) 文書作成 ページレイアウトの設定 インデントとTabキー、箇条書きなど (必要な準備) 前回の復習(30分)
第4回	Word 3(図入りの文書の作成)	(内 容) 図形・画像の作成・挿入 テキストの配置 Snipping Toolの使い方など (必要な準備) 前回の復習(30分)
第5回	Word 4(表作成)	(内 容) 単純な表、複雑な表の作成 (必要な準備) 前回の復習(30分) 自分の時間割がわかるものを持参
第6回	Word 5(総復習)	(内 容) 習得したテクニックを用いて課題作成 (必要な準備) 前回の復習(30分)
第7回	Excel 1(基本操作)	(内 容) セル・シートの解説 データ入力 簡単な計算式など (必要な準備) 前回の復習(30分)
第8回	Excel 2(表計算)	(内 容) 合計、平均、最大値・最小値、四捨五入、IF関数など 式のコピー (必要な準備) 前回の復習(30分)
第9回	Excel 3(作表と印刷設定)	(内 容) 罫線、文字の配置 セルの挿入・削除・結合 印刷設定など (必要な準備) 前回の復習(30分)
第10回	Excel 4(グラフ)	(内 容) 棒・折線・円・複合などのグラフ Wordとのリンク (必要な準備) 前回の復習(30分)
第11回	Excel 5(総復習)	(内 容) 分析とグラフ作成の実践 (必要な準備) 前回の復習(30分)
第12回	PowerPoint 1(基本操作)	(内 容) スライドサイズの変更 スライドマスターの編集 箇条書き、インデント、Tabキーの使い方 画像の加工、アニメーションの設定 (必要な準備) 前回の復習(30分)
第13回	PowerPoint 2(Word、Excelとの連携)	(内 容) グラフ、表の作成 ノートの記入 印刷設定 (必要な準備) 前回の復習(30分)
第14回	PowerPoint 3(総復習) インターネット・リテラシー	(内 容) 習得したテクニックを用いて課題作成 インターネットを使用する上で注意すべき点について学習する (必要な準備) 前回の復習(30分)
第15回	PowerPoint 4(プレゼンテーション)	(内 容) PowerPointを使用したプレゼンテーションの実際 (必要な準備) プレゼンテーションの準備 前回の復習(30分)

授業名	日本語表現法 a			開講学年	1回生	単位数	2単位	
英文名	Japanese Writing			開講時期	秋学期	必修・選択	選択	
担当者	土井 哲治			対象学生	歴史1回生、幼児教育1回生			
授業の概要	<p>短大での学びや社会生活において求められる日本語の能力の習得をめざし、15回の授業を通して主に小論文の書き方を学び、添削指導によって訓練する。文章作成に必要な基本作業や文章構成の論理構築、個性発揮の方法等を学び、自分を魅せるための文章力を習得する。</p>							
学習成果到達目標	<p>1) 小論文の書き方が分かっている。 2) 自分の考えを相手に伝え共感を生むための文章力の獲得のために、訓練すべきことが分かっている。</p>							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力)			
テキスト	使用しない。							
参考書	なし							
留意事項	授業準備を怠らないこと。							
オフィス アワー	金曜日午後15時から18時まで							

授 業 名		日 本 語 表 現 法 a
授 業 計 画	学 習 項 目	学 習 内 容 ・ 課 題
第1回	授業のねらいと進め方の理解	(内 容) 授業の進め方について (必要な準備) シラバスを熟読しておく
第2回	小論文とは	(内 容) 小論文の作成方法について解説する。 (必要な準備) 課題に関する資料の用意
第3回	課題に関する資料の理解	(内 容) 論じる事項を理解する。 (必要な準備) 資料のまとめ
第4回	課題を論じる論旨図の作成	(内 容) 論旨図を作成する。 (必要な準備) 前回講義内容の完璧な理解
第5回	論旨図の再構成	(内 容) 論旨図を再構成する。 (必要な準備) 再調査・論旨図の熟考
第6回	小論文の作成	(内 容) 小論文を作成する。 (必要な準備) 論旨図の完成
第7回	小論文の書き換え	(内 容) 添削結果を承けて小論文を再作成する。 (必要な準備) 参考資料の味読
第8回	小論文の完成	(内 容) 添削結果を承けて小論文を熟成する。 (必要な準備) 更なる資料調査
第9回	制限字数を減らして、論旨図作成	(内 容) 制限字数を減らしてどう論じるか考える。 (必要な準備) 論旨図の用意
第10回	制限字数を減らして、小論文の作成	(内 容) 小論文を作成する。 (必要な準備) 論旨図の完成
第11回	制限字数を減らして、小論文の書き換え	(内 容) 添削結果を承けて小論文を再作成する。 (必要な準備) 自己添削
第12回	次の課題の小論文の準備	(内 容) 次の課題の論旨図まで仕上げる。 (必要な準備) 資料の収集
第13回	小論文作成	(内 容) 小論文を作成する。 (必要な準備) 論旨図の完成
第14回	小論文の再作成	(内 容) 添削結果を承けて小論文を再作成する。 (必要な準備) 再調査
第15回	まとめ	(内 容) 授業を総括する。 (必要な準備) 未提出課題の確認

授業名	日本語表現法 b			開講学年	1回生	単位数	2単位	
英文名	Japanese Writing			開講時期	秋学期	必修・選択	選択	
担当者	川島 智生			対象学生	歴史1回生、幼児教育1回生			
授業の概要	短大での学びや社会生活において求められる日本語の能力の習得をめざし、15回の授業を通して主に小論文の書き方を学び、添削指導によって訓練する。文章作成に必要な基本作業や文章構成の論理構築、個性発揮の方法等を学び、自分を魅せるための文章力を習得する。							
学習成果到達目標	1) 小論文の書き方が分かっている。 2) 自分の考えを相手に伝え共感を生むための文章力の獲得のために、訓練すべきことが分かっている。							
評価方法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力)	(課題発見・解決能力)	
テキスト	使用しない。							
参考書	なし							
留意事項	授業準備を怠らないこと。							
オフィス アワー	金曜日午後15時から18時まで							

授 業 名		日 本 語 表 現 法 b
授 業 計 画	学 習 項 目	学 習 内 容 ・ 課 題
第1回	授業のねらいと進め方の理解	(内 容) 授業の進め方について (必要な準備) シラバスを熟読しておく
第2回	小論文とは	(内 容) 小論文の作成方法について解説する。 (必要な準備) 課題に関する資料の用意
第3回	課題に関する資料の理解	(内 容) 論じる事項を理解する。 (必要な準備) 資料のまとめ
第4回	課題を論じる論旨図の作成	(内 容) 論旨図を作成する。 (必要な準備) 前回講義内容の完璧な理解
第5回	論旨図の再構成	(内 容) 論旨図を再構成する。 (必要な準備) 再調査・論旨図の熟考
第6回	小論文の作成	(内 容) 小論文を作成する。 (必要な準備) 論旨図の完成
第7回	小論文の書き換え	(内 容) 添削結果を承けて小論文を再作成する。 (必要な準備) 参考資料の味読
第8回	小論文の完成	(内 容) 添削結果を承けて小論文を熟成する。 (必要な準備) 更なる資料調査
第9回	制限字数を減らして、論旨図作成	(内 容) 制限字数を減らしてどう論じるか考える。 (必要な準備) 論旨図の用意
第10回	制限字数を減らして、小論文の作成	(内 容) 小論文を作成する。 (必要な準備) 論旨図の完成
第11回	制限字数を減らして、小論文の書き換え	(内 容) 添削結果を承けて小論文を再作成する。 (必要な準備) 自己添削
第12回	次の課題の小論文の準備	(内 容) 次の課題の論旨図まで仕上げる。 (必要な準備) 資料の収集
第13回	小論文作成	(内 容) 小論文を作成する。 (必要な準備) 論旨図の完成
第14回	小論文の再作成	(内 容) 添削結果を承けて小論文を再作成する。 (必要な準備) 再調査
第15回	まとめ	(内 容) 授業を総括する。 (必要な準備) 未提出課題の確認

授業名	日本語表現法 c			開講学年	1回生	単位数	2単位	
英文名	Japanese Writing			開講時期	秋学期	必修・選択	選択	
担当者	乾 真理子			対象学生	歴史1回生、幼児教育1回生			
授業の概要	読み手にとって分かりやすい文章を書くための方法を学び、添削指導によって訓練する。また、文章を読むことを通じて書き手の言いたいことを読み取れる力を養う。							
学習成果到達目標	1) 読み手に内容が伝わる文章を書ける 2) 文章の大まかな意味を読み取れることができる							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力)			
テキスト	使用しない							
参考書	随時提示する							
留意事項	課題は必ず全て提出すること。							
オフィス アワー	初回の授業で提示する							

授 業 名		日 本 語 表 現 法 C
授 業 計 画	学 習 項 目	学 習 内 容 ・ 課 題
第1回	授業のねらいと進め方の理解	(内 容) 授業の進め方について (必要な準備) シラバスを熟読しておく
第2回	文章の書くための準備	(内 容) 文章を書く前の準備を理解する。 (必要な準備) 前回の課題を完成させておく(30分)
第3回	文章を書くための注意点 語法	(内 容) わかりやすい文章を書くための語法を理解する。 (必要な準備) 前回の課題を完成させておく(30分)
第4回	文章を書くための注意点 接続詞	(内 容) わかりやすい文章を書くための接続詞の使用方法を理解する。 (必要な準備) 前回の課題を完成させておく(30分)
第5回	文章を書くための注意点 表現	(内 容) わかりやすい文章を書くための表現法を理解する。 (必要な準備) 前回の課題を完成させておく(30分)
第6回	文章を書くための注意点 感情表現	(内 容) 感情表現を理解する。 (必要な準備) 前回の課題を完成させておく(30分)
第7回	読み手を説得する方法	(内 容) 帰納法、演繹法を理解する。 (必要な準備) 前回の課題を完成させておく(30分)
第8回	文章の推敲	(内 容) 推敲における注意点を理解する。 (必要な準備) 前回の課題を完成させておく(30分)
第9回	要約 新聞記事	(内 容) 要約の方法を理解する。新聞記事を読み要約する。 (必要な準備) 前回の課題を完成させておく(30分)
第10回	要約 エッセイ	(内 容) エッセイを読み要約する。 (必要な準備) 前回の課題を完成させておく(30分)
第11回	要約 小説	(内 容) 小説を読み要約する。要約を通して読解力を養う。 (必要な準備) 前回の課題を完成させておく(30分)
第12回	小論文の準備	(内 容) 小論文を作成のための内容の組み立てを考える。 (必要な準備) 資料の収集
第13回	小論文作成	(内 容) 小論文を作成する。 (必要な準備) 前回の課題を完成させておく(30分)
第14回	小論文の再作成	(内 容) 添削結果を承けて小論文を再作成する。 (必要な準備) 前回の課題を完成させておく(30分)
第15回	まとめ	(内 容) 授業を総括する。 (必要な準備) 未提出課題の確認

授業名	いのちの科学 a・b			開講学年	1回生	単位数	2単位	
英文名	Life Science			開講時期	春学期	必修・選択	選択	
担当者	山本 明美			対象学生	歴史1回生、幼児教育1回生			
授業の概要	生命進化を生化学的に概観するとともに、地球の環境変化との相互関係を解説する。 1. 生命の科学的定義。 2. 生命進化 3. 地球の環境変化 4. 個体発生 5. 発生過程の生化学的変化							
学習成果到達目標	1) 生命に対する科学的概念が確立できる。 2) 生命進化に対する地球環境の影響を理解できる。 3) 個体発生過程を理解できる。 4) 最新のバイオテクノロジーに関心を持ち、関連の新聞記事が理解できる。							
評価方法	定期試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力) (
テキスト	プリントを配布します。							
参考書	ニュートン 「生命の誕生と進化の38億年」((株)ニュートンプレス)、視覚でとらえるフォトサイエンス 「生物図鑑」鈴木孝仁監修 数研出版、NHKプロジェクト 『地球大進化』(NHK出版)。							
留意事項	生物学、化学、地学などの学問領域にこだわることなく、最新の知見に基づき総合的に思考、理解して欲しい。							
オフィス アワー	初回の授業で連絡します。							

授業名		いのちの科学 a・b	
授業計画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	生命とは	(内 容)	生命の科学的定義 (必要な準備) 生命について考えておく
第2回	進化タンパク質	(内 容)	たん白質に残された進化の化学的痕跡 (必要な準備) タンパク質について調べておく
第3回	進化とDNA	(内 容)	DNAに残された進化の化学的痕跡 (必要な準備) DNAについて調べておく
第4回	宇宙の誕生過程	(内 容)	宇宙のフラストレーションとビックバン (必要な準備) 宇宙の誕生について調べておく
第5回	地球の歴史	(内 容)	太陽および地球の誕生過程 (必要な準備) 地球の歴史について調べておく
第6回	地球上の大陸移動	(内 容)	大陸移動およびそのエネルギー源 (必要な準備) 大陸移動について調べておく
第7回	地球の凍結	(内 容)	全球凍結による大量絶滅 (必要な準備) 地球の凍結について調べておく
第8回	地球上の生物の発生と進化	(内 容)	生物の進化 (必要な準備) カンブリア爆発について調べておく
第9回	ヒトの起源	(内 容)	哺乳類およびヒトの誕生 (必要な準備) ヒトへの進化について調べておく
第10回	ヒトの起源(ヒトが地球上に拡散した過程)	(内 容)	ヒトがアフリカから地球上に拡散した過程 (必要な準備) ミトコンドリア・イヴ説などを調べておく
第11回	日本人の起源	(内 容)	日本人の構成 (必要な準備) 日本人の起源について調べておく
第12回	個体発生(受精過程)	(内 容)	精子と卵子の受精から着床まで (必要な準備) 受精の課程について調べておく
第13回	個体発生(妊娠過程)	(内 容)	受精卵の着床から出産まで (必要な準備) 妊娠の課程について調べておく
第14回	バイオテクノロジーについて	(内 容)	クローン羊の意義、遺伝子組み換え技術による農作物 (必要な準備) バイオテクノロジーについて調べておく
第15回	再生医療	(内 容)	ES細胞、iPS細胞の意義 (必要な準備) 再生医療について調べておく

授業名	こころの科学 a・b			開講学年	1回生	単位数	2単位	
英文名	Mental Science			開講時期	春・秋学期	必修・選択	選択	
担当者	下温湯 まゆみ			対象学生	歴史1回生、幼児教育1回生			
授業の概要	<p>心理学の基礎を学び、人の心のはたらきや行動について理解を深める。また、心理学は生活や社会と密接に結びついた内容が研究されており、日常的な現象について心理学の理論や実験を通して理解をすすめる。心理学を学ぶことで、自己理解・他者理解をすすめる、発達していく人間の可能性を認識し、社会でより良く生きるための知見を得る。</p>							
学習成果到達目標	<p>1) 知覚や認知のしくみ・パーソナリティー・記憶について科学的に分析し、人の行動を理解することにつなげる。 2) 生涯発達の観点のもと、乳幼児期と青年期の発達や心の理論の発達について理解する。 3) 集団生活や社会の中での人の心のはたらきや行動の解明に活用されている心理学、対人援助分野に活用されている心理学について学び、今後の仕事や生活に活かす。</p>							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テキスト	授業は配布プリントを使ってすすめる。							
参考書	随時紹介する。							
留意事項								
オフィスアワー	金曜日12:30~14:00(変更の場合は、研究室前に掲示する)							

授 業 名		こころの科学 a・b	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	ガイダンス 心理学の歴史と方法 心理学の専門分野	(内 容) 講義の目的と学習の流れ 心理学の歴史 心理学の専門分野と各分野の関係 (必要な準備) 専用のファイルを準備する。	
第2回	心理学入門1 知覚と認知の理解	(内 容) 感覚・知覚・認知の定義 錯覚 (必要な準備) 前回の復習(30分)	
第3回	心理学入門2 パーソナリティーの追究	(内 容) パーソナリティーの定義 パーソナリティー特性 パーソナリティー検査 (必要な準備) 前回の復習(30分)	
第4回	心理学入門3 記憶の不思議	(内 容) 記憶のしくみとプロセス 忘却 記憶の研究 (必要な準備) 前回の復習(30分)	
第5回	発達心理学1 発達と青年期	(内 容) 発達の定義 発達段階と発達課題 生涯発達の観点 青年期の心理的特徴 (必要な準備) 心理学入門1～3の復習(90分)	
第6回	発達心理学2 心の理論	(内 容) 心の理論の研究とその展開 心の理解の土台づくり (必要な準備) 前回の復習(30分)	
第7回	発達心理学3 赤ちゃん・乳児の能力	(内 容) 赤ちゃんの能力 赤ちゃん・乳児研究 (必要な準備) 前回の復習(30分)	
第8回	社会心理学1 社会的認知の理解	(内 容) 他者や集団の受けとめ方 印象形成 ステレオタイプ 帰属 バランス理論と認知的不協和理論 (必要な準備) 発達心理学1～3の復習(90分)	
第9回	社会心理学2 社会的影響の理解	(内 容) 集団内での影響作用 援助行動 意思決定 リーダーシップ (必要な準備) 前回の復習(30分)	
第10回	中間まとめ	(内 容) 前半の講義の振り返りとレポートの作成 (必要な準備) 社会心理学1～2の復習(90分)	
第11回	臨床心理学1 無意識と防衛機制	(内 容) フロイトの精神分析理論 心の構造 自我の防衛機制 (必要な準備) 前回の復習(30分)	
第12回	臨床心理学2 カウンセリング	(内 容) ロジャーズの来談者中心療法 自己概念 共感と傾聴の態度 (必要な準備) 前回の復習(30分)	
第13回	臨床心理学3 教育現場の心理職	(内 容) 現場の事例と心理職の役割 (必要な準備) 前回の復習(30分)	
第14回	臨床心理学4 福祉現場の心理職	(内 容) 現場の事例と心理職の役割 (必要な準備) 前回の復習(30分)	
第15回	全体のまとめ	(内 容) 講義全体の振り返りとまとめ (必要な準備) 臨床心理学1～4の復習(90分)	

授業名	人生と哲学 a・b			開講学年	2回生	単位数	2単位	
英文名	Life and Philosophy			開講時期	春・秋学期	必修・選択	選択	
担当者	西本 明央			対象学生	歴史2回生、幼児教育2回生			
授業の概要	<p>「哲学」とはあらゆる対象に、常にその真の姿を求める行為である。批判的に捉え直したり、自ら考えたりする姿勢である。自ら主体的に考え、また共に考え合うことによって、新たな視点を見出すことを目的とする。「哲学」は我々の日常への深い洞察から始まるものである。そこで、我々に身近なテーマを毎回取り上げ、共に再考する。</p>							
学習成果到達目標	<p>1) 情報をただ受け取るだけでなく、自ら主体的に考えて、自らのものとしてすることができる。 2) あらゆることに対し、批判的に考え直し、それを表現することができる。 3) 自らの人生観・世界観を意識し、表現することができる。</p>							
評価方法	定期試験 (100 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (汎用能力	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力) (
テキスト	使用しない。							
参考書	使用しない。							
留意事項	講義を中心として行う。テキストは特定しないが、種々に考える題材を提供することにより、自分自身の考えをまとめ、ノートを作るよう努力して下さい。							
オフィス アワー	後日研究室前に掲示します。							

授 業 名		人生と哲学 a・b
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	「哲学」とは	(内 容) 「哲学」という学問の原点について概説する。 (必要な準備) シラバスを読んでおく。(10分)
第2回	「philosophia」とは	(内 容) 「philosophia=知を愛すること」とは如何なることが共に考える。 (必要な準備) 前回授業のノートを読み返し再考する。(30分)
第3回	「哲学」の意義とは	(内 容) 「哲学」の存在意義について共に考える。 (必要な準備) 前回授業のノートを読み返し再考する。(30分)
第4回	「行為とその選択」とは	(内 容) 「行為」を選択する自由と、「選択」する基準について共に考える。 (必要な準備) 前回授業のノートを読み返し再考する。(30分)
第5回	「科学」とは	(内 容) 「科学」とは何か共に考える。 (必要な準備) 前回授業のノートを読み返し再考する。(30分)
第6回	「哲学」と「科学」とは	(内 容) 「哲学」と「科学」は補い合うことを共に考える。 (必要な準備) 前回授業のノートを読み返し再考する。(30分)
第7回	「価値」とは	(内 容) 「価値」とは何かについて共に考える。 (必要な準備) 前回授業のノートを読み返し再考する。(30分)
第8回	「目的」とは	(内 容) 「目的」を決めるものは何かについて共に考える。 (必要な準備) 前回授業のノートを読み返し再考する。(30分)
第9回	「常識」とは	(内 容) 「常識」とは何かについて共に考える。 (必要な準備) 前回授業のノートを読み返し再考する。(30分)
第10回	「法律」とは	(内 容) 「法律」とは何かについて共に考える。 (必要な準備) 前回授業のノートを読み返し再考する。(30分)
第11回	「自然」とは	(内 容) 「自然」とは何かについて共に考える。 (必要な準備) 前回授業のノートを読み返し再考する。(30分)
第12回	「環境」とは	(内 容) 「環境」とは何かについて共に考える。 (必要な準備) 前回授業のノートを読み返し再考する。(30分)
第13回	「言葉」とは	(内 容) 「言葉」とは何かについて共に考える。 (必要な準備) 前回授業のノートを読み返し再考する。(30分)
第14回	「認識」・「概念」とは	(内 容) 「認識」・「概念」とは何かについて共に考える。 (必要な準備) 前回授業のノートを読み返し再考する。(30分)
第15回	講義総括	(内 容) 講義のまとめ、我々の日常への新たな視点について共に考える。 (必要な準備) 全14回授業のノートを読み返し再考する。(90分)

授業名	くらしと法律			開講学年	1回生	単位数	2単位	
英文名	Law and Our Living			開講時期	春学期	必修・選択	選択	
担当者	岸本 正司			対象学生	歴史1回生、幼児教育1回生			
授業の概要	<p>私たちは、さまざまなルールにしたがって日々の生活を送っている。法は、これらのルールの一つであり、国家・社会そして個人のあり方を方向づけるものとして、他ならぬ私たち自身がつくり出したものである。本授業では、人生の各段階における法との出会いを学ぶことを通して、法の社会生活における役割や働きなどを理解する。</p>							
学習成果到達目標	<p>1) 具体的な例をもとにして、日々の生活と法との関わりを学ぶことにより、法を身近な事柄として理解できる。 2) 身に付けた知識を、日常生活の中で活用できる。</p>							
評価方法	定期試験 (100%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (論理的思考力)	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力		課題発見・解決能力		
テキスト	市民生活と法 [第4版] [法律文化社]							
参考書	法律用語辞典 [第4版] [有斐閣]、六法全書 ・ [有斐閣] ほか、授業中に適宜紹介する。							
留意事項	授業計画通りすすめるので、教科書の該当箇所(各章など)を熟読して授業に臨むことが必須である。							
オフィス アワー	質問・相談などは、担当授業終了後にも受け付けます。							

授 業 名		くらしと法律	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	法学入門 1 (現代日本法の特徴)	(内 容) 文化と法、近代日本法の形成 (必要な準備) テキストの入手。はしがき・目次の一読。	
第2回	法学入門 2 (社会生活と法)	(内 容) 法の性格、法の目的、法の実在形式、法の分類、法に特有の原則 (必要な準備) テキスト序章を熟読しておく。	
第3回	親子と法	(内 容) 法的人格、出生、親子法理念、実親子、養親子 (必要な準備) テキスト第1章を熟読しておく。	
第4回	職場と法	(内 容) 労働法の意義、労働を取り巻く環境の変化、労働に関する基本ルール、非正規という働き方 (必要な準備) テキスト第3章を熟読しておく。	
第5回	婚姻と法	(内 容) 婚姻、婚姻の効果、婚姻の解消、離婚の効果 (必要な準備) テキスト第4章を熟読しておく。	
第6回	消費生活と法	(内 容) 日常生活における取引の原則と消費者問題、市民の生活を守る「消費者法」ほか (必要な準備) テキスト第5章を熟読しておく。	
第7回	住居と法	(内 容) 住居の多様性、自己所有住居の場合(1)(2)、他者所有住居の場合 (必要な準備) テキスト第6章を熟読しておく。	
第8回	事故と法	(内 容) 事故の種類と法、市民生活上生じる事故、事故被害の救済制度 (必要な準備) テキスト第7章を熟読しておく。	
第9回	情報と法	(内 容) 情報化社会、情報公開、プライバシーの権利、財産的情報 (必要な準備) テキスト第8章を熟読しておく。	
第10回	環境と法	(内 容) 環境問題の動向、環境法における基本原則、循環型社会の形成、地球温暖化防止にむけて他 (必要な準備) テキスト第9章を熟読しておく。	
第11回	地域社会と法	(内 容) 私たちのくらしと地方自治、地方公共団体の組織と運営、住民自治の権利 (必要な準備) テキスト第10章を熟読しておく。	
第12回	犯罪と法	(内 容) 犯罪と刑罰、刑法の一般原理、個別の犯罪類型 (必要な準備) テキスト第11章を熟読しておく。	
第13回	裁判と法	(内 容) 裁判の種類、裁判所の種類と構成、裁判官その他の裁判所職員・検察官・弁護士、刑事裁判他 (必要な準備) テキスト第12章を熟読しておく。	
第14回	高齢社会と法	(内 容) 高齢化社会と法律、新たな成年後見制度の概要、扶養、高齢者問題に関する最近の動き (必要な準備) テキスト第13章を熟読しておく。	
第15回	死亡と法	(内 容) 人の死亡とそれに関わる法、相続の意義、現行相続制度、相続人と相続分他 (必要な準備) テキスト第14章を熟読しておく。	

授業名	くらしと経済 a・b			開講学年	1回生	単位数	2単位	
英文名	Economics and Our Living			開講時期	春・秋学期	必修・選択	選択	
担当者	井上 博子			対象学生	歴史1回生、幼児教育1回生			
授業の概要	当然と思いきらしている日々の消費生活を通して「経済」の基礎を学び、経済を支えるビジネスや政府の経済活動が、私たちの生活とどう関わっているのかを具体的に見ていく。 さらに経済のグローバル化によって、これからの経済活動の変化や国際社会のかかえる課題の解決策も考える。							
学習成果到達目標	1) 経済の基礎知識を習得し、経済的社会的正義に基づいたライフスタイルを実践できる。 2) 若者を取り巻く消費者問題や雇用環境を理解し、説明することができる。 3) 倫理、社会、経済、環境面を考慮した消費者行動ができる。							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テキスト	『くらしの豆知識』国民生活センター編							
参考書	蔵研也『18歳から考える 経済と社会の見方』春秋社							
留意事項	新聞やTV、インターネットなどのニュースに関心を持ち、さまざまな文献や公的機関のHPを積極的に読んでみる。関連する記事はクリッピングしておくこと。復習をしっかりと行うこと。							
オフィス アワー	担当授業終了後に実施する。							

授業名	くらしと経済 a・b	
授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	ガイダンス 「私たちの生活と経済」	(内 容) 「経済」とは何か (必要な準備) シラバスを読んでおく
第2回	経済のしくみとビジネス	(内 容) 「経済を支えるビジネス」や「経済活動の基本的な考え方」について (必要な準備) 配布資料を事前学習しておく。
第3回	経済活動と流通	(内 容) 「流通の役割と働き」「流通機構と流通経路」について (必要な準備) 配布資料を事前学習
第4回	市場経済の機能と限界	(内 容) 市場における「価格」の役割、「市場メカニズム」、「消費行動と意思決定」について (必要な準備) 配布資料を事前学習しておく。
第5回	金融のしくみと機能	(内 容) お金と銀行の役割、「日銀のしごと」について (必要な準備) 配布資料を事前学習しておく。
第6回	金融サービスと法律	(内 容) 「クレジットカード」、「電子マネー」について (必要な準備) 配布資料を事前学習しておく。
第7回	現代社会と消費者問題	(内 容) 「消費者市民」社会、消費者の権利と責任について (必要な準備) テキストを読み、事前学習しておく。
第8回	若者の消費者トラブルと消費者行政	(内 容) 若者を取り巻く消費者トラブル事例と解決策 (必要な準備) テキストを読み、事前学習しておく。
第9回	契約の基礎知識	(内 容) 「契約とは」「契約の成立と無効・取消」、 「未成年者の契約」 (必要な準備) テキストを読み、事前学習しておく。
第10回	情報をクリティカルに読み解く	(内 容) 誇大広告や不当表示(景品表示法)について (必要な準備) 配布資料を事前学習しておく。
第11回	雇用と労働問題	(内 容) 労働をめぐる制度・法律、現代の雇用問題と対策について (必要な準備) テキストを読み、事前学習しておく。
第12回	若者の雇用環境	(内 容) 若者の雇用環境の変化とその対策、ブラックバイトについて (必要な準備) テキストを読み、事前学習しておく。
第13回	貿易と外国為替	(内 容) 現代の貿易と日本企業、外国為替と円高・円安のしくみ、経済のグローバル化について (必要な準備) 配布資料を事前学習しておく。
第14回	国際NGOと国際機関、国際会議のいろいろ	(内 容) 国連をはじめ、さまざまな国際機関や国際会議について (必要な準備) 配布資料を事前学習しておく。
第15回	グローバル社会のエシカル消費、まとめ	(内 容) 社会を良くする「エシカル消費」とは、「フェアトレード」の社会的意義について。これまでの授業内容の復習と補足 (必要な準備) テキスト、配布資料を読み直しておく。

授業名	京都の歴史と文化 a・b			開講学年	1回生	単位数	2単位	
英文名	History and Culture of Kyoto			開講時期	春・秋学期	必修・選択	選択	
担当者	工藤 美和子			対象学生	歴史1回生、幼児教育1回生			
授業の概要	京都にはどのような歴史と文化が息づいてきたのかについて学ぶ。							
学習成果到達目標	京都の歴史と文化について、様々な視点から京都に関する知識と理解を深め、各自、京都の文化に対する好奇心と実践を養う。							
評価方法	定期試験 (100 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (講義中に行う小テスト	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力	(講義に対する意欲)	
テキスト	担当教員が資料を準備する。配布資料は忘失しないこと。							
参考書	特になし。							
留意事項	講義中の私語・スマホの使用は厳禁。 講義中に行う小テストも評価基準となる。							
オフィス アワー	第1回講義にて指示する。							

授 業 名		京都の歴史と文化 a・b	
授 業 計 画	学 習 項 目	学 習 内 容 ・ 課 題	
第1回	ガイダンス	(内 容) 講義の進め方について。 (必要な準備) 講義の注意点を良く聞くこと(90分)	
第2回	平安京の誕生	(内 容) 現在の京都市が平安京に選ばれた理由について学ぶ。 (必要な準備) 講義をよく聞いておくこと(90分)	
第3回	京都の祭 葵祭	(内 容) 京都を代表する祭のうち、葵祭について学ぶ。 (必要な準備) 講義内容をよく聞いておくこと(90分)	
第4回	京都の祭 祇園祭	(内 容) 祇園祭について学ぶ。 (必要な準備) 講義をよく聞いておくこと(90分)	
第5回	京都のお寺・神社参り	(内 容) 寺社参りについて学ぶ。 (必要な準備) 講義をよく聞いておくこと(90分)	
第6回	京都の「お守り」	(内 容) 寺社に置かれている「お守りについて学ぶ。 (必要な準備) 講義内容をよく聞いておくこと(90分)	
第7回	京の昔話	(内 容) 京に伝わる昔話について学ぶ。 (必要な準備) 講義をよく聞いておくこと(90分)	
第8回	京の怪異話	(内 容) 京に伝わる怪異話について知る。 (必要な準備) 講義内容をよく聞いておくこと(90分)	
第9回	京の信仰生活	(内 容) 京都に住む人々の信仰生活について学ぶ。 (必要な準備) 講義内容をよく聞いておくこと(90分)	
第10回	京ことば	(内 容) 「京ことば」を聞く・話す。 (必要な準備) 講義内容をよく聞いておくこと。	
第11回	京の花街	(内 容) 花街で生きる女性(舞妓・芸妓)について学ぶ。 (必要な準備) 講義内容をよく聞いておくこと(90分)	
第12回	京の食生活 京の行事食	(内 容) 京の行事食について学ぶ。 (必要な準備) 講義をよく聞いておくこと(90分)	
第13回	京の食生活 京菓子里にいたるまで	(内 容) 菓子の歴史について学ぶ。 (必要な準備) 講義をよく聞いておくこと(90分)	
第14回	京の路地(ろおじ)	(内 容) 京都の路地(ろおじ)について学ぶ。 (必要な準備) 講義をよく聞いておくこと(90分)。	
第15回	まとめ	(内 容) 講義についてのふり返り。 (必要な準備) これまでの講義内容について復習すること。	

授業名	日本の文学			開講学年	2回生	単位数	2単位	
英文名	Japanese Literature			開講時期	春学期	必修・選択	選択	
担当者	土井 哲治			対象学生	歴史2回生、幼児教育2回生			
授業の概要	<p>普段読まない、日本の有名な古典作品を味読することで、古い時代の日本人の姿に関する知識を増やし、優れた古人のいろいろな感性やものの考え方に接していただき、それらを通して、日常あまり考えないことを考える手懸かりともしていただきたい。</p>							
学習成果到達目標	<p>1) 『徒然草』について語ることができる。 2) 普段考えない方面のことを十分考えることができる。</p>							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (論理展開力)	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力 (文章理解力)	課題発見・解決能力			
テキスト	『新版 徒然草 現代語訳付き』(角川ソフィア文庫)小川剛生・訳注(角川書店)							
参考書								
留意事項	<p>毎回テキストの現代語訳を読んでくること。 レポート作成時に欠席した場合は、必ず授業内容を確認して提出すること。</p>							
オフィスアワー	月曜日午後12時から午後15時まで							

授 業 名		日本の文学	
授 業 計 画	学 習 項 目	学 習 内 容 ・ 課 題	
第1回	導入	(内 容) 授業概要について (必要な準備)	
第2回	三・七段	(内 容) 左記の段を精読し、小レポートを作成する。 (必要な準備) 現代語訳を読んでくる。	
第3回	九・十二段	(内 容) 左記の段を精読し、小レポートを作成する。 (必要な準備) 現代語訳を読んでくる。	
第4回	十九・二十五段	(内 容) 左記の段を精読し、小レポートを作成する。 (必要な準備) 現代語訳を読んでくる。	
第5回	三十・三十一段	(内 容) 左記の段を精読し、小レポートを作成する。 (必要な準備) 現代語訳を読んでくる。	
第6回	三十二・三十八段	(内 容) 左記の段を精読し、小レポートを作成する。 (必要な準備) 現代語訳を読んでくる。	
第7回	四十一・四十四段	(内 容) 左記の段を精読し、小レポートを作成する。 (必要な準備) 現代語訳を読んでくる。	
第8回	五十・五十四段	(内 容) 左記の段を精読し、小レポートを作成する。 (必要な準備) 現代語訳を読んでくる。	
第9回	五十六・五十九段	(内 容) 左記の段を精読し、小レポートを作成する。 (必要な準備) 現代語訳を読んでくる。	
第10回	七十一・七十三段	(内 容) 左記の段を精読し、小レポートを作成する。 (必要な準備) 現代語訳を読んでくる。	
第11回	七十五・八十八段	(内 容) 左記の段を精読し、小レポートを作成する。 (必要な準備) 現代語訳を読んでくる。	
第12回	百四・百七段	(内 容) 左記の段を精読し、小レポートを作成する。 (必要な準備) 現代語訳を読んでくる。	
第13回	百十二・百十七段	(内 容) 左記の段を精読し、小レポートを作成する。 (必要な準備) 現代語訳を読んでくる。	
第14回	百二十八・百五十五段	(内 容) 左記の段を精読し、小レポートを作成する。 (必要な準備) 現代語訳を読んでくる。	
第15回	まとめ	(内 容) 総括と質問。定期試験の課題について説明。 (必要な準備) 質問の用意	

授 業 名	ジェンダー論			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	
英 文 名	Gender Studies			開 講 時 期	秋学期	必修・選択	選択	
担 当 者	斧出 節子			対 象 学 生	歴史2回生、幼児教育2回生			
授業の概要	<p>「女性である」「男性である」ということは、あまりに当たり前すぎて日常的に意識化されないことが多い。しかし、人は生まれた瞬間から女性または男性いずれかのカテゴリーに入れられ、文化的・社会的にふさわしい行動が期待される。本講義ではまず、どのような過程を経て、女性、男性になっていくのかを「社会化」という点からとらえ、「ジェンダー（文化的・社会的性差）」を相対化することを試みる。そして、現実の生活の中でジェンダーがどのように機能し、どのような課題を含んでいるのかを探っていく。</p>							
学 習 成 果 達 成 目 標	<p>1) 現代社会におけるジェンダー差が意味するものについて意見を持つことができる。 2) 自分自身、今後開発すべき能力は何かを理解することができる。</p>							
評 価 方 法	定期試験 (80 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (20 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (積極的な授業態度)	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力			
テ キ ス ト	『女性学・男性学 改訂版 ジェンダー論入門』伊藤公雄ほか(有斐閣アルマ)							
参 考 書	『初めて学ぶジェンダー論』伊田広行 著(大月書店)、『よくわかるジェンダー・スタディーズ』木村涼子ほか編著(ミネルヴァ書房)、『ジェンダー論をつかむ』千田有紀ほか著(有斐閣)、『未来をひらく男女共同参画 - ジェンダーの視点から』西岡正子編(ミネルヴァ書房)ほか、随時紹介する。							
留 意 事 項	講義のほか、ディスカッションも行い、受講者は授業への積極的な参加が求められる。							
オ フ ィ ス ア ワ ー	毎週1回(休業期間中を除く。)オフィスアワーを設けます。具体的な日時は研究室に張り出します。 【備考】オフィスアワーに設定している時間帯であっても、会議や出張などで在室できない場合があります。また、あらかじめ予約が必要な場合がありますので、その場合は、メールまたは直接申し出るようにしてください							

授 業 名		ジェンダー論	
授 業 計 画	学 習 項 目	学 習 内 容 ・ 課 題	
第1回	セックスとジェンダーの違い	(内 容) 概念説明 (必要な準備) シラバスを読んでおく。	
第2回	「らしさ」とは何か	(内 容) 男らしさ、女らしさについて考える。 (必要な準備) テキストの関連箇所を読んでおく。(30分)	
第3回	男女二分法について	(内 容) 二つに分けることはどういうことかを学ぶ。 (必要な準備) 前回の授業内容をまとめておくこと。(30分)	
第4回	性における多様性：性の複数の次元	(内 容) 性の複数の次元について学ぶ。 (必要な準備) テキストの関連箇所を読んでおく。(30分)	
第5回	性における多様性：性の少数派	(内 容) 性の少数派について理解する。 (必要な準備) テキストの関連箇所を読んでおく。(30分)	
第6回	文化とジェンダー	(内 容) 文化によるジェンダーの違いを学ぶ。 (必要な準備) テキストの関連箇所を読んでおく。(30分)	
第7回	幼児期の性役割の社会化	(内 容) 親と子どもの相互作用について学ぶ。 (必要な準備) テキストの関連箇所を読んでおく。(30分)	
第8回	シンデレラとジェンダー	(内 容) 映像を分析する。 (必要な準備) グリム童話について調べておくこと。(30分)	
第9回	メディアがジェンダー形成に与える影響	(内 容) メディアが与える影響を考える。 (必要な準備) 課題レポートを作成しておくこと。(30分)	
第10回	教育とジェンダー：隠れたカリキュラム	(内 容) 隠れたカリキュラムについて理解する。 (必要な準備) 前回の授業内容をまとめておくこと。(30分)	
第11回	教育とジェンダー：隠れたカリキュラムの実態	(内 容) 自分の経験をもとに、隠れたカリキュラムの実態について考える。 (必要な準備) テキストの関連箇所を読んでおく。(30分)	
第12回	デートDVとジェンダー	(内 容) デートDVの実態とメカニズムを学ぶ。 (必要な準備) 前回の授業内容をまとめておくこと。(30分)	
第13回	男女雇用機会均等法	(内 容) 男女雇用機会均等法の成立過程とその内容について学ぶ。 (必要な準備) テキストの関連箇所を読んでおく。(30分)	
第14回	男女共同参画社会をめざして	(内 容) 各領域でのジェンダー平等の実態について (必要な準備) 前回の授業内容をまとめておくこと。(30分)	
第15回	まとめ	(内 容) これまでのまとめ (必要な準備) 疑問点をまとめておくこと。(30分)	

授業名	基礎・現代社会			開講学年	1回生	単位数	2単位	
英文名	Basic Contemporary Society			開講時期	春学期	必修・選択	選択	
担当者	岸 優子			対象学生	歴史1回生、幼児教育1回生			
授業の概要	戦後日本の子どもをとりまく現状を理解し、子どもの育ち方について影響を与えている多様な要因を考察する。あわせて子どもの成長・発達における文化の重要性を理解できるようにする。							
学習成果到達目標	<p>1) 戦後の日本社会の変化を子どもを取り巻く「モノ」の変化からとらえ、子どもの成長・発達に及ぼす多様な要因を挙げることができる。</p> <p>2) 各回の講義テーマの内容に関して、自分の生活経験に照らして社会的意義を理解して他人に説明できる。</p> <p>3) 現代社会の社会事象のうち、自分の興味・関心を持ったテーマを深く考えていく態度を持つことができる。</p>							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力)	(課題発見・解決能力)	
テキスト	使用しない。							
参考書								
留意事項	毎回の当該テーマについては、受講生の興味・関心により柔軟に対応することもある。							
オフィス アワー	担当授業終了後に実施する等							

授 業 名		基礎・現代社会	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	ガイダンス：戦後日本の社会の変化と子どもの生活	(内 容)	本講義の授業内容と進め方。戦後日本の社会史と家族史・個人史を理解できる (必要な準備) シラバスで授業の流れを確認する。(10分)
第2回	子どもを取り巻く社会(1)少子化	(内 容)	ヒトが人間になるための社会・文化的環境について理解できる。 (必要な準備) 少子化について調べてくる。(20分)
第3回	子どもを取り巻く社会(2)超少子化	(内 容)	超少子化とはどういうことか、これからの社会の現状を理解できる。 (必要な準備) 前回の要点を箇条書きでまとめてくる。(15分)
第4回	子どもを取り巻く社会(3)高齢化	(内 容)	高齢化が子どもの育ちに与える影響を理解できる。 (必要な準備) 高齢化について調べてくる。(20分)
第5回	子どもを取り巻く社会(4)おもちゃの変遷	(内 容)	現代のおもちゃの変遷を知り、子どもの育ちへの影響を理解できる。 (必要な準備) 自分の幼少期に遊んだ遊びについて箇条書きで書いてくる。(20分)
第6回	子どもと大人(1)育児書	(内 容)	育児書前史、1950年代から60年代、子育ての実用書、80年代から90年代への育児書、これからの育児書を理解できる (必要な準備) 授業の要点を箇条書きでまとめる。(15分)
第7回	子どもと大人(2)居住環境	(内 容)	大人や子どもにとっての居住環境の意義を理解することができる (必要な準備) 子ども部屋について考えたことを書いてくる。(15分)
第8回	中間まとめ	(内 容)	子どもの育ちに影響を与える社会・文化的要因についてまとめる。 (必要な準備) これまで学んだ内容を活用し、自分史・家族史をまとめてくる(60分)
第9回	子どもと文化(1)写真	(内 容)	子ども時代を記録するもの、家族アルバム、子どもの写真が理解できる (必要な準備) 自分にとって、思い出となる一枚の写真について考えてくる。(20分)
第10回	子どもと文化(2-)わらべ唄・童謡	(内 容)	子どもの口ずさむモノ、子どもの宇宙、「唱歌と童謡」を通じて、わらべ唄が理解できる (必要な準備) 自分の知っているわらべ唄を発表できるようにしておく(40分)
第11回	子どもと文化(2-)わらべ唄・童謡の発表	(内 容)	自分の知っているわらべ唄や童謡を発表することで、多様な伝承文化を理解する (必要な準備) 1枚の用紙にまとめてくる。(60分)
第12回	子どもと文化(3)おやつ	(内 容)	駄菓子屋、西洋菓子の進出、おやつ、甘いお菓子など、おやつの歴史が理解できる (必要な準備) 各自、好きなおやつを考えてくる。あわせてその理由も書いてくる。(20分)
第13回	身体をつくる(1)母乳とミルク	(内 容)	人生初期の食べ物について：ヒトはほ乳類であることを理解する。母乳や人工乳についての意義・役割を理解できる。 (必要な準備) 母乳の役割について調べてくる。(40分)
第14回	身体をつくる(2)食生活	(内 容)	日常の食生活の意義が理解できる。多様な食生活が子どもの育ちに与える影響を理解するとともに、食生活の変遷を知る。 (必要な準備) 各自、食生活について大切にしていることを中心に振り返る。(20分)
第15回	まとめと次に繋げる課題の明確化	(内 容)	現代社会が子どもの育ちについて影響を与えている多様な要因を検討し、今後のあり方を考えることができる (必要な準備) これまでのまとめと次に繋げる課題を考えてくる。(60分)

授業名	基礎・数学			開講学年	1回生	単位数	2単位	
英文名	Basic Mathematics			開講時期	春学期	必修・選択	選択	
担当者	川島 智生			対象学生	歴史1回生、幼児教育1回生			
授業の概要	高等学校までに学習した数学を再び学ぶ。数学の意味を数式、幾何をとおして把握させる。中学校3年レベル数学検定試験ならびに高等学校2年レベル数学検定試験をおこない、学力の確認をする。定期試験にくわえて、小テストを毎回実施する。予習復習を義務づける。							
学習成果到達目標	1) 基礎的な数学の問題を解くことに加えて、その手法を習得することを到達目標とする。 2) 最低限の数学の基礎学力を得ることを到達目標とする。 3) 数学を解くことの楽しさを体験することで、より数学に親しむことを目標とする。							
評価方法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力)			
テキスト	授業中プリントを配布							
参考書	適宜参考書を紹介する。							
留意事項	小テストを毎回実施する。中学校3年レベル数学検定試験ならびに高等学校2年レベル数学検定試験あり							
オフィス アワー	オフィスアワーは設定しますが、研究室に在室していれば対応します。どうしても場合は、事前にメール又は直接申出を							

授 業 名		基礎・数学	
授 業 計 画	学 習 項 目	学 習 内 容 ・ 課 題	
第1回	数学の美とガイダンス	(内 容) 数学の美しさ、ならびにガイダンス (必要な準備) 数学のイメージをしておくこと	
第2回	中学校3年レベル数学検定試験実施	(内 容) 中学校3年レベル数学検定試験実施 (必要な準備) 中学校数学の復習	
第3回	数と式1	(内 容) 方程式・小テスト実施 (必要な準備) 中学校数学の復習	
第4回	数と式2	(内 容) 連立方程式・小テスト実施 (必要な準備) 中学校数学の復習	
第5回	幾何学1	(内 容) 図形・基本・小テスト実施 (必要な準備) コンパス・定規・分度器を用意	
第6回	幾何学2	(内 容) 図形・三角形・小テスト実施 (必要な準備) コンパス・定規・分度器を用意	
第7回	幾何学3	(内 容) 図形・円・小テスト実施 (必要な準備) コンパス・定規・分度器を用意	
第8回	高等学校2年レベル数学検定試験実施	(内 容) 高等学校2年レベル数学検定試験実施 (必要な準備) 中学校数学の復習	
第9回	三角法	(内 容) 三角法・小テスト実施 (必要な準備) プリントを讀んでおくこと	
第10回	代数	(内 容) 確率について学ぶ。小テスト実施 (必要な準備) プリントを讀んでおくこと	
第11回	統計	(内 容) 統計・小テスト実施 (必要な準備) プリントを讀んでおくこと	
第12回	確率	(内 容) 確率・小テスト実施 (必要な準備) プリントを讀んでおくこと	
第13回	総合演習(1)	(内 容) 復習と確認。 (必要な準備) 授業で扱った問題の整理	
第14回	総合演習(2)	(内 容) 復習と確認。 (必要な準備) 授業で扱った問題の整理	
第15回	総合演習(3)	(内 容) 復習と確認。 (必要な準備) 授業で扱った問題の整理	

授業名	基礎・化学			開講学年	1回生	単位数	2単位	
英文名	Basic Chemistry			開講時期	春学期	必修・選択	選択	
担当者	山本 明美			対象学生	歴史1回生、幼児教育1回生			
授業の概要	私たちの生活の中に起こっている様々な事象は、化学と深く関連している。化学を基礎から学ぶことは、物質の本質を知り生命を理解するうえで重要である。授業では、基礎的な項目である元素記号からはじめ、化学反応や有機化合物や無機化合物について解説する。							
学習成果到達目標	1) 化学の基礎的な項目を理解できる。 2) 生活の中での事象を化学的に捉えることができる。 3) 的確な判断を下し有効に化学の知識を活用できる。							
評価方法	定期試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力)			
テキスト	わかる化学 松井・小野著 科学同人							
参考書	授業中に指摘する。							
留意事項	教科書やノートで予習と復習をすること。							
オフィスアワー	初回の授業で連絡します。							

授 業 名		基礎・化学
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	元素の周期表	(内 容) 元素記号と周期表の意味 (必要な準備) 教科書中の元素の周期表を一読しておく
第2回	原子、分子、イオン	(内 容) 原子、分子、イオンの質量 (必要な準備) p.19 - 25を一読しておくこと
第3回	物質の成り立ちと構成元素	(内 容) 人や食品を構成する物質 (必要な準備) 教科書p.1 - 7を一読しておくこと
第4回	化学結合	(内 容) 結合の種類と特徴について (必要な準備) 教科書p.8 - 18を一読しておくこと
第5回	物質の三態	(内 容) 固体、液体、気体 (必要な準備) 教科書p.29 - 36
第6回	コロイド化学	(内 容) コロイド粒子や溶液の特徴 (必要な準備) 教科書p.36 - 39を一読しておくこと
第7回	化学エネルギー	(内 容) 生体エネルギーと食品中のエネルギー (必要な準備) 教科書p.43 - 48を一読しておくこと
第8回	化学反応と化学反応式	(内 容) 物質の変化を示す化学式。酸と塩基との反応 (必要な準備) 教科書p.49 - 55を一読しておくこと
第9回	酸化と還元	(内 容) 身の回りの酸化と還元 (必要な準備) 教科書p.55 - 64を一読しておくこと
第10回	溶液の濃度とその表し方	(内 容) パーセント濃度、モル濃度、規定濃度 (必要な準備) 教科書p.65 - 78を一読しておくこと
第11回	有機化合物(三大栄養素)	(内 容) 糖質、タンパク質、脂質 (必要な準備) 教科書p.73 - 86を一読しておくこと
第12回	有機化合物(生命活動を担う物質)	(内 容) 核酸、遺伝、酵素 (必要な準備) 教科書p.86 - 100を一読しておくこと
第13回	無機化合物の種類	(内 容) 多量元素と微量元素 (必要な準備) 教科書p.101 - 106を一読しておくこと
第14回	無機化合物の働き	(内 容) 必須ミネラル (必要な準備) 教科書p.107 - 108を一読しておくこと
第15回	生活と化学	(内 容) 生活の中での化学的な現象 (必要な準備) 具体的な事象について考えておくこと

授業名	英語・コミュニケーション			開講学年	2回生	単位数	1単位	
英文名	English Communication			開講時期	春学期	必修・選択	選択	
担当者	山本 典子			対象学生	歴史2回生、幼児教育2回生			
授業の概要	「文法」の復習をしつつ、会話に必要なリスニングとスピーキングの力をつけていきます。また、異文化について知ることができるよう随時読み物も加えていきます。							
学習成果到達目標	1) 簡単な自己紹介、日本の紹介ができる。 2) 会話を聞き取れるようにする。また、参加できるようにする。 3) 過去形、現在完了形を使って英作できる。							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テキスト	『English Switch』 Robert Hickling・白倉美里 金星堂							
参考書	特になし							
留意事項	テキストは毎回使用するので必ず購入し持参してください。授業の流れが止まらないよう予習、復習をしっかりとしておいてください。							
オフィス アワー	担当授業終了後に実施する							

授 業 名		英語・コミュニケーション	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	オリエンテーション Pre-Unit Unit 1 Jobs and Careers	(内 容)	品詞と語順 5文型の演習 現在時制の演習 (必要な準備) 特になし
第2回	Unit 2 Entertainment	(内 容)	Unit 1の復習 可算名詞・不加算名詞の確認 (必要な準備) テキスト pp.12-17の予習
第3回	Unit 3 Work Schedule	(内 容)	色々な前置詞の意味 前置詞を含むフレーズを意識して音読 (必要な準備) テキスト pp. 24-29の予習
第4回	Unit 4 Health and Fitness	(内 容)	過去時制の演習 不規則動詞の変化を覚える (必要な準備) テキスト pp. 30-35の予習
第5回	Unit 5 Shopping	(内 容)	現在形・過去形の復習 現在・過去進行形の使い方 (必要な準備) テキストpp. 36-41の予習
第6回	Unit 6 Business Meeting	(内 容)	名詞・代名詞の確認 加算・不加算名詞の復習 (必要な準備) テキスト pp. 42-47の予習
第7回	Unit 7 Recruitment	(内 容)	現在形・過去形の復習 現在完了形の演習 不規則動詞の過去形・過去分詞形 (必要な準備) テキスト pp. 48-53の予習
第8回	Unit 8 Customer Needs	(内 容)	色々な接続詞の意味、使い方 実際に文を作ってみる。 (必要な準備) テキスト pp. 54-59の予習
第9回	Unit 9 Business Trip	(内 容)	現在形・過去形・現在完了形の復習 未来形の作り方 (必要な準備) テキスト pp .60-65の予習
第10回	Unit 10 Advertising	(内 容)	比較級・最上級の理解 (必要な準備) テキスト pp. 66-71の予習
第11回	Unit 11 Factory Tour	(内 容)	過去分詞の確認 能動態から受動態に書き換える。 (必要な準備) テキスト pp. 72-77の予習
第12回	Unit 12 Money Matters	(内 容)	名詞の役割確認 動名詞・不定詞の使い方 (必要な準備) テキスト pp. 78-83の予習
第13回	Unit 13 Leisure	(内 容)	助動詞の意味と英作 (必要な準備) テキスト pp. 84-89 の予習
第14回	Unit 14 Environment	(内 容)	現在分詞・過去分詞の使い方 (必要な準備) テキスト pp. 90-95の予習
第15回	Unit 15 Business Trip 春学期の復習	(内 容)	関係詞節の演習 総復習 (必要な準備) テキスト pp. 96-101の予習

授業名	英語・コミュニケーション			開講学年	2回生	単位数	1単位	
英文名	English Communication			開講時期	秋学期	必修・選択	選択	
担当者	山本 典子			対象学生	歴史2回生、幼児教育2回生			
授業の概要	文法をしっかり復習しつつ、会話に必要なリスニング、スピーキングの力をつけていきます。異文化理解を目的として読み物も随時取り入れていきます。							
学習成果到達目標	1) 簡単な自己紹介、日本の紹介ができる。 2) 簡単な会話を聞き取り、参加できるようにする。 3) 過去形、現在完了形を使って英作できる。							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テキスト	『Keep Talking』村田和代・大谷麻美・村田奏美・重光由加 桐原書店							
参考書	特になし							
留意事項	テキストは毎回使うので必ず、購入し持参すること。授業の流れが止まらないように予習、復習はしっかりとしておいてください。							
オフィス アワー	担当授業終了後に実施する							

授 業 名		英語・コミュニケーション	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	Unit 1 Hi, is this seat taken?	(内 容)	オリエンテーション 初めて会った人と話す。 Small talk (必要な準備) テキストpp.2-5の予習
第2回	Unit 2 That's a lovely T-shirt.	(内 容)	一言ほめるテクニックを覚える。 (必要な準備) テキストpp.6-9の予習
第3回	Unit 3 Pardon?	(内 容)	相手の言ったことが聞き取れない時どうするか。 丁寧に尋ねる。 (必要な準備) テキストpp.10-13の予習
第4回	Unit 4 I really enjoyed it.	(内 容)	過去形の復習 Short Answerだけでなく一言加えてみる。 (必要な準備) テキスト pp.14-17の予習
第5回	Unit 5 Is that right?	(内 容)	相手の話を黙って聞いているだけでなくあいづちを打つ。 (必要な準備) テキスト pp.18-21の予習
第6回	Unit 6 How about you?	(内 容)	相手の話に興味を持って聞いていることをうまく伝える。 (必要な準備) テキストpp.22-25の予習
第7回	Unit 7 Thank you so much!	(内 容)	大切な一言、お礼の言い方を覚える。 (必要な準備) テキスト pp.26-29の予習
第8回	Unit 8 Excuse me, but...	(内 容)	上手に苦情を言う。 (必要な準備) テキストpp.30-33の予習
第9回	Unit 9 This is my fault.	(内 容)	上手に謝罪する。 (必要な準備) テキストpp.34-37の予習
第10回	Unit 10 I'd rather not say.	(内 容)	答えたくない質問に上手に対処してみる。 (必要な準備) テキストpp.38-41の予習
第11回	Unit 11 Could you tell me the way to the station?	(内 容)	助動詞などを使って丁寧に頼んでみる。 (必要な準備) テキスト pp.42-45の予習
第12回	Unit 12 How about next Sunday?	(内 容)	イベントなどに誘ってみる。 (必要な準備) テキストpp.46-49の予習
第13回	Unit 13 I'll think about it.	(内 容)	失礼にならないよう上手に断る。 (必要な準備) テキスト pp.50-53の予習
第14回	Unit 14 That's a good idea, but...	(内 容)	口調を和らげる表現を覚える。 (必要な準備) テキスト pp.54-57の予習
第15回	Unit 15 I'd better be going.	(内 容)	別れるときの会話を切り上げる表現を覚える。 (必要な準備) テキスト pp.58-61の予習

授業名	中国語			開講学年	2回生	単位数	1単位	
英文名	Chinese			開講時期	春学期	必修・選択	選択	
担当者	大西 あゆみ			対象学生	歴史2回生、幼児教育2回生			
授業の概要	この講座では前期・後期の一年を通して、自己紹介や買い物といったやさしくかつ実用的な中国語会話を学習することが目的になる。前期では特にピンインの読み方や発音、日本語との文法の違いなどを重点的に説明していく予定である。なお、実際に中国人を教室に招いてのコミュニケーション練習も行う予定。							
学習成果到達目標	1) 中国人と初歩的なコミュニケーションが取れるようになること。 2) 簡単な中国語が読めるようになること。 3) ピンインを見て正しい発音ができるようになること。							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テキスト	『1年生のコミュニケーション中国語』劉穎 著(白水社)							
参考書	特になし							
留意事項	特になし							
オフィス アワー	担当授業終了後に実施する							

授業名	中国語	
授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	中国語の特徴	(内 容) 中国語と日本語の違いを紹介し、発音を練習 (必要な準備) 特になし
第2回	L1 . 自己紹介	(内 容) 新出語・文法を解説 (必要な準備) 前回の発音を復習しておく
第3回	L1 . トレーニング・練習問題	(内 容) 練習問題を解き、CDでヒアリングを行う (必要な準備) 前回の新出語・文法を復習しておく
第4回	L2 . これは何ですか	(内 容) 新出語・文法を解説 (必要な準備) 新出語の発音を予習
第5回	L2 . トレーニング・練習問題	(内 容) 練習問題を解き、CDでヒアリングを行う (必要な準備) 前回の新出語・文法を復習しておく
第6回	中国人との実地コミュニケーション	(内 容) 学習した中国語で中国人と会話する (必要な準備) 使う文型を暗記しておく
第7回	L3 . これはいかがですか	(内 容) 新出語・文法を解説 (必要な準備) 新出語の発音を予習
第8回	L3 . トレーニング・練習問題	(内 容) 練習問題を解き、CDでヒアリングを行う (必要な準備) 前回の新出語・文法を復習しておく
第9回	L4 . いくらですか	(内 容) 新出語・文法を解説 (必要な準備) 新出語の発音を予習
第10回	L4 . トレーニング・練習問題	(内 容) 練習問題を解き、CDでヒアリングを行う (必要な準備) 前回の新出語・文法を復習しておく
第11回	L5 . どこにありますか	(内 容) 新出語・文法を解説 (必要な準備) 新出語の発音を予習
第12回	L5 . トレーニング・練習問題	(内 容) 練習問題を解き、CDでヒアリングを行う (必要な準備) 前回の新出語・文法を復習しておく
第13回	L6 . 何がありますか	(内 容) 新出語・文法を解説 (必要な準備) 新出語の発音を予習
第14回	L6 . トレーニング・練習問題	(内 容) 練習問題を解き、CDでヒアリングを行う (必要な準備) 前回の新出語・文法を復習しておく
第15回	L1 ~ L6 . 総復習	(内 容) プリントによる簡単な復習テスト (必要な準備) 前期の学習内容をノートにまとめる

授 業 名	中国語			開 講 学 年	2回生	単 位 数	1単位	
英 文 名	Chinese			開 講 時 期	秋学期	必修・選択	選択	
担 当 者	大西 あゆみ			対 象 学 生	歴史2回生、幼児教育2回生			
授業の概要	前期の続き。レベルはあまり高くないが、いきなり途中から学び始めるのはやや難しいかもしれない。前期を受講しなかった人は、テキストや付属のCDを活用して自分なりの基礎作りを平行して行ってほしい。なお、後期にも機会があれば中国人との実地コミュニケーション練習を取り込む予定。							
学 習 成 果 達 成 目 標	1) 中国人とやや複雑なコミュニケーションが取れるようになること。 2) 自分で既習語を応用した文章を作れるようになること。 3) 既習語を応用した文章を耳で聞いて理解できるようになること。							
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テ キ ス ト	『1年生のコミュニケーション中国語』劉穎 著(白水社)							
参 考 書	特になし							
留 意 事 項	前期授業を取らなかった人は、自分でテキストの前半部の単語・文法をノート等にまとめて学習しておくのが望ましい。CDも聞いておくこと。							
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業終了後に実施する							

授 業 名		中国語	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	L7．予約しましたか	(内 容)	新出語・文法を解説 (必要な準備) 新出語の発音を予習
第2回	L7．トレーニング・練習問題	(内 容)	練習問題を解き、CDでヒアリングを行う (必要な準備) 前回の新出語・文法を復習しておく
第3回	L8．何時に行きますか	(内 容)	新出語・文法を解説 (必要な準備) 新出語の発音を予習
第4回	L8．トレーニング・練習問題	(内 容)	練習問題を解き、CDでヒアリングを行う (必要な準備) 前回の新出語・文法を復習しておく
第5回	L9．AからBまでどれくらいかかりますか	(内 容)	新出語・文法を解説 (必要な準備) 新出語の発音を予習
第6回	L9．トレーニング・練習問題	(内 容)	練習問題を解き、CDでヒアリングを行う (必要な準備) 前回の新出語・文法を復習しておく
第7回	中国人との実地コミュニケーション(予定、できなければ映像教材での授業)	(内 容)	中国人との実地コミュニケーション(予定、できなければ映像教材での授業) (必要な準備) 使う文型を暗記しておく
第8回	L10．着てみてもいいですか	(内 容)	新出語・文法を解説 (必要な準備) 新出語の発音を予習
第9回	L10．トレーニング・練習問題	(内 容)	練習問題を解き、CDでヒアリングを行う (必要な準備) 前回の新出語・文法を復習しておく
第10回	L11．ちょっと修理してください	(内 容)	新出語・文法を解説 (必要な準備) 新出語の発音を予習
第11回	L11．トレーニング・練習問題	(内 容)	練習問題を解き、CDでヒアリングを行う (必要な準備) 前回の新出語・文法を復習しておく
第12回	L12．財布を落としたんです	(内 容)	新出語・文法を解説 (必要な準備) 新出語の発音を予習
第13回	L12．トレーニング・練習問題	(内 容)	練習問題を解き、CDでヒアリングを行う (必要な準備) 前回の新出語・文法を復習しておく
第14回	L7～L9．総復習	(内 容)	プリントによる簡単な復習テスト (必要な準備) 該当学習範囲をノート等にまとめておく
第15回	L10～L12．総復習	(内 容)	プリントによる簡単な復習テスト (必要な準備) 該当学習範囲をノート等にまとめておく

授業名	ハングル			開講学年	2回生	単位数	1単位	
英文名	Hangul			開講時期	春学期	必修・選択	選択	
担当者	韓 亨模			対象学生	歴史2回生、幼児教育2回生			
授業の概要	多文化が共生する今日、隣国である韓国の言葉や文字を学び、さらには韓国の文化に対する理解を深める。							
学習成果到達目標	1. ハングルの仕組みを理解し、正しく読み・書きができる。 2. 韓国語で基礎的なコミュニケーションができる。							
評価方法	定期試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (汎用的能力)	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力 (積極性)	課題発見・解決能力			
テキスト	『基礎から学ぶ韓国語講座 初級 改訂版』 木内明 著 (国書刊行会)							
参考書	随時指示する。							
留意事項	特になし。							
オフィス アワー	担当授業終了後に実施する							

授 業 名		ハンゲル	
授 業 計 画	学 習 項 目	学 習 内 容 ・ 課 題	
第1回	ガイダンス	(内 容) 講義の進め方、韓国語について、あいさつ (必要な準備)	
第2回	基礎・第2課 基本母音	(内 容) 10の基本母音、あいさつ (必要な準備) 前回の復習	
第3回	基礎・第3課 基本子音	(内 容) 平音、激音、濃音、鼻音、流音、自己紹介 (必要な準備) 前回の復習	
第4回	基礎・第4課 複合母音	(内 容) 11の複合母音、自己紹介 (必要な準備) 前回の復習	
第5回	基礎・第5課 バッチム	(内 容) 代表子音、実用表現 (必要な準備) 前回の復習	
第6回	基礎・第6課 発音の変化	(内 容) 有声音化、連音、流音化、激音化、実用表現 (必要な準備) 前回の復習	
第7回	基礎・第6課 発音の変化	(内 容) hの弱化、濃音化、口蓋音化、鼻音化、実用表現 (必要な準備) 前回の復習	
第8回	復習	(内 容) 文字(ハンゲル)と発音のまとめ (必要な準備) これまでの復習	
第9回	第1課 私は浅井ゆかりです	(内 容) ~は / ~です (必要な準備) これまでの復習	
第10回	第2課 出身はソウルですか	(内 容) ~が / ~ですか (必要な準備) 前回の復習	
第11回	第3課 図書館ではありません	(内 容) ~ではありません / ~ではありませんか (必要な準備) 前回の復習	
第12回	第4課 時間がありますか	(内 容) います・あります / いません・ありません (必要な準備) 前回の復習	
第13回	第5課 インターネットをします	(内 容) します・しますか / 何 (必要な準備) 前回の復習	
第14回	第6課 貿易会社で働いています	(内 容) (打ちとけた) します・しますか/います・いません (必要な準備) 前回の復習	
第15回	まとめ	(内 容) 春学期のまとめ (必要な準備) これまでの復習	

授業名	ハングル			開講学年	2回生	単位数	1単位	
英文名	Hangul			開講時期	秋学期	必修・選択	選択	
担当者	韓 亨模			対象学生	歴史2回生、幼児教育2回生			
授業の概要	多文化が共生する今日、隣国である韓国の言葉や文字を学び、さらには韓国の文化に対する理解を深める。							
学習成果到達目標	1. ハングルの仕組みを理解し、正しく読み・書きができる。 2. 韓国語で基礎的なコミュニケーションができる。							
評価方法	定期試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (汎用的能力)	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力 (積極性)	課題発見・解決能力			
テキスト	『基礎から学ぶ韓国語講座 初級 改訂版』 木内明 著 (国書刊行会)							
参考書	随時指示する。							
留意事項	ハングルが読めることが望ましい。							
オフィス アワー	担当授業終了後に実施する							

授 業 名		ハンゲル	
授 業 計 画	学 習 項 目	学 習 内 容 ・ 課 題	
第1回	ガイダンス	(内 容) 講義の説明、あいさつ、自己紹介、実用表現 (必要な準備)	
第2回	第7課 東大門市場に行きます	(内 容) (かしまった)です・ます (必要な準備) 前回の復習	
第3回	第8課 しょっちゅうスーパーで買います	(内 容) ヲ体、(打ちとけた)丁寧 / ~しに (必要な準備) 前回の復習	
第4回	第8課 しょっちゅうスーパーで買います	(内 容) 母音の縮約 / 変則用言の丁寧形 (必要な準備) 前回の復習	
第5回	第9課 それは1万ウォンです	(内 容) 漢数詞 (必要な準備) 前回の復習	
第6回	第10課 今、何時ですか	(内 容) 時間 (必要な準備) 前回の復習	
第7回	第10課 今、何時ですか	(内 容) 固有数詞、助数詞 (必要な準備) 前回の復習	
第8回	第11課 日本語を話されますか	(内 容) 尊敬語 (必要な準備) 前回の復習	
第9回	第12課 そんなに遠くありません	(内 容) 用言の否定 (必要な準備) 前回の復習	
第10回	第12課 そんなに遠くありません	(内 容) ~するといいです (必要な準備) 前回の復習	
第11回	復習	(内 容) 敬語(丁寧語・尊敬語)の復習 (必要な準備) これまでの復習	
第12回	第13課 いつ韓国に来ましたか	(内 容) 過去形 (必要な準備) これまでの復習	
第13回	第13課 いつ韓国に来ましたか	(内 容) 変則用言の過去形 (必要な準備) 前回の復習	
第14回	第14課 民俗村に一緒に行きましょう	(内 容) 勧誘の表現(～しましょう / ～しよう) (必要な準備) 前回の復習	
第15回	まとめ	(内 容) 秋学期のまとめ (必要な準備) これまでの復習	

授 業 名	健康スポーツ科学			開 講 学 年	2回生	単 位 数	1単位	
英 文 名	Health and Sports Science			開 講 時 期	春学期	必修・選択	選択	
担 当 者	山岡 憲二			対 象 学 生	歴史2回生、幼児教育2回生			
授業の概要	健康スポーツ科学 ・ で学んだ基礎知識を基に、その応用として生涯にわたるスポーツ活動と健康活動を実現できるよう積極的にスポーツ活動を実践する。本授業での実施種目はバスケットボールとバレーボールで、球技としての特性を活かし仲間とのコミュニケーションを大切にしながらゲームを中心に授業を展開する。							
学 習 成 果 達 成 目 標	1) 運動の実践により生涯スポーツの基礎となる知識と技能を習得する 2) 健康の維持・増進を目的とした運動・栄養・休養の見識を高め自己管理能力を習得する 3) スポーツを通してコミュニケーション能力、協調性、リーダーシップなどを育む							
評 価 方 法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (授業態度・協調性	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力 (健康への理解	課題発見・解決能力)
テ キ ス ト	プリントを使用する。							
参 考 書	随時紹介する。							
留 意 事 項	運動に相応しい服装と上履きを必ず用意すること。							
オ フ ィ ス ア ワ ー	授業終了後体育準備室で実施する。							

授 業 名		健康スポーツ科学	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	はじめに アイスブレイキング	(内 容) 本講に関するオリエンテーション・コミュニケーションワーク (必要な準備)	
第2回	ソフトバレーボール	(内 容) グループビンゲ グループ練習 簡易ゲーム (必要な準備) ソフトバレーボールのルールを調べる	
第3回	ソフトバレーボール	(内 容) グループ練習 ゲーム (必要な準備) ソフトバレーボールの戦術を考える	
第4回	ソフトバレーボール	(内 容) グループ練習 ゲーム (必要な準備) ソフトバレーボールの戦術を考える	
第5回	ソフトバレーボール	(内 容) リーグ戦 (必要な準備) ソフトバレーボールの戦術を考える	
第6回	バレーボール	(内 容) グループビンゲ グループ練習 ゲーム (必要な準備) バレーボールのル - ルを調べおく	
第7回	バレーボール	(内 容) グループ練習 ゲーム (必要な準備) バレーボールの戦術を考える	
第8回	バレーボール	(内 容) リーグ戦 (必要な準備) バレーボールの戦術を考える	
第9回	バレーボール	(内 容) リ - グ戦 (必要な準備) バレ - ボールのルールを調べる	
第10回	バスケットボール	(内 容) グル - ビング・グループ練習・簡易ゲーム (必要な準備) バスケットボールのル - ルを調べておく	
第11回	バスケットボール	(内 容) グループ練習 ゲーム (必要な準備) バスケットボールの戦術を考える	
第12回	バスケットボール	(内 容) リーグ戦 (必要な準備) バスケットボールの戦術を考える	
第13回	バドミントン	(内 容) グループビンゲ グループ練習 ゲーム (必要な準備) バドミントンのル - ルを調べておく	
第14回	バドミントン	(内 容) グループ練習 ゲーム (必要な準備) バドミントンの戦術を考える	
第15回	バドミントン	(内 容) グループ練習 ゲーム・レボ - ト提出 (必要な準備) バドミントンの戦術を考える	